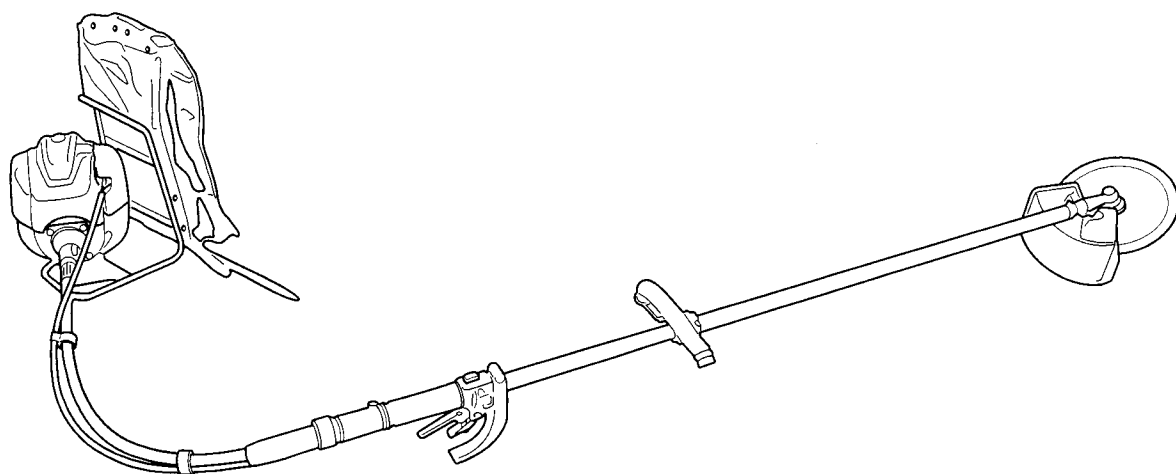
刈払機
UMR425・UMR425H
取扱説明書

お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

● 本機は、ガソリン・4ストローク エンジンつき刈払機です。次表の用途区分に合せ使用してください。枝打ち作業には、使用しないでください。

機種（タイプ）	ハンドル形式	本機の用途区分
UMR425（LWJT）	ループ ハンドル	草刈・笹刈用：雑草および笹、すすきなどに使用してください。
UMR425H（LWHT）		

● 本機に付属している刈刃は、次表のように設定されています。刈刃は、それぞれの用途区分に従って使用してください。詳しくは、刈刃の説明書きに従ってください。

機種（タイプ）	設定刈刃の仕様	本機の用途区分
UMR425（LWJT）	直径230 mm チップソー Honda純正 品番7329	草刈・笹刈用：雑草および笹、すすきなどに使用してください。
UMR425H（LWHT）		

刈刃は、本機に設定されたものを使用してください。設定以外の刈刃は、使用しないでください。
品番7329の刈刃を使用してください。
品番7329以外の刈刃は、本機に適合しない場合があり、思わぬ事故の原因となることがあります。

● 本機は、一部部品の組立てが必要です。ご使用前に組立ててください。（同梱部品の組付けかた：41頁参照）
● 本機は工場出荷時、右手でスロットル トリガを操作する“右出し”状態に組付けられています。左手でスロットル トリガを操作する“左出し”状態で使用する場合、組替えが必要です。（組替えは、36頁参照）

は　じ　め　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた刈払機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。本機を運転する前に、この取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- 本機を操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。なお、この取扱説明書は、エンジン組付け状態を“右出し”にして説明してあります。

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

目　次

これだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解のうえ操作してください。
  刈刃については本書と共に、刈刃に付属する説明書きを事前に読み、これに従ってください。
- 作業の前に作業範囲から棒、大きな石、針金、ガラスなどを取除いてください。
- 本機を枝打ち作業に使用しないでください。
- 刈刃は、その用途区分に従って使用してください。
  (刈刃の用途区分は、表紙の裏側を参照)
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
  また、緊急時、本機を身体からすばやく離すため、背負いバンド分離器具の使用方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検・整備を必ず行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
  刈刃については、確実に取付けられていること、損傷がないことを確認してください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
  飛散防護カバーは、刈刃部からの飛散物が作業者に飛来しないようにするものです。飛散防護カバーを取外したり、正しい位置に取付けない状態で本機を使用しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
  刈刃は、本機に設定されたものを使用してください。Honda純正品番7329（PART NO. 72511-VJ3-0030 BLADE, CUTTER）以外の刈刃は、本機に適合しない場合があり、思わぬ事故の原因となることがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベルを超えないように補給し、燃料タンク キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。
- 燃料を補給後、エンジンを始動する場合、燃料を補給した場所から3m以上離れてください。
- 屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは、本機を使用しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 急傾斜地では本機を使用しないでください。急傾斜地はすべりやすく、転倒するおそれがあります。
- 飛来物や衝撃による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- 本機を持ち運ぶときは、エンジンを停止し、刈刃の回転が止まったことを確認して、刈刃に刈刃カバーを取付けてください。

警告

● 服装について

長袖、長ズボンで身体に合った作業着を着用してください。作業着は、ボタンやファスナを確実に閉じてください。また、裾じまり、袖じまりをよくしてください。

さらに、腕カバーを着用してください。

ヒモのついた服、だぶだぶの服、ネクタイ、ネックレスなどは、着用しないでください。本機や雑草などにからまる原因となります。

髪の長い人は、髪を肩より上でまとめてください。

● 保護具について

・保護メガネ（ゴーグル）
刈刃部から飛んでくる物から目を保護するため、保護メガネを着用してください。

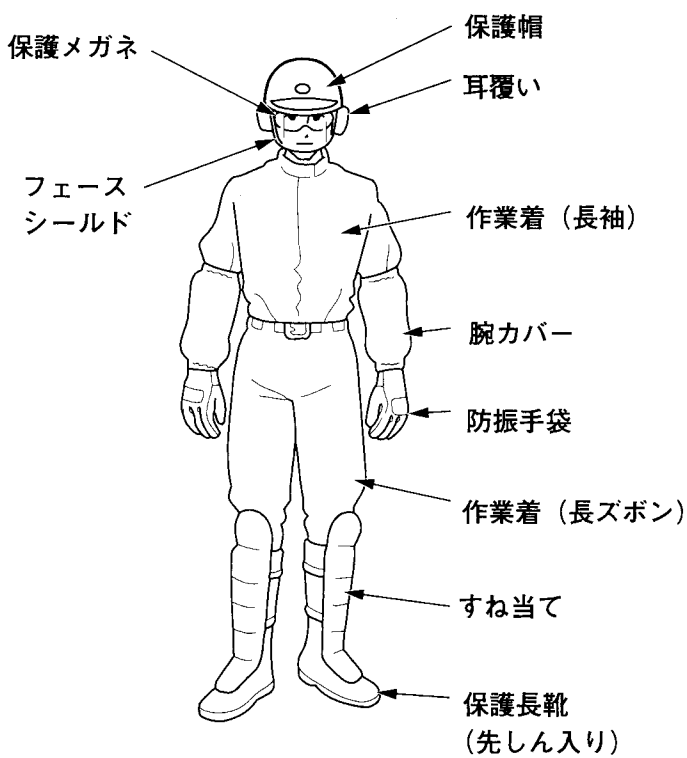
・保護帽（ヘルメット）
頭上の木の枝や、落下物から頭を保護するため、保護帽を着用してください。

・フェース シールド
飛来物や飛散物から顔を保護するため、フェース シールドを着用してください。

・耳覆い（イヤーマフ）・耳栓
騒音から聴力を保護するため、耳覆いや耳栓などの聴力保護具を着用してください。

・防振手袋
手の保護のため、防振手袋を着用してください。

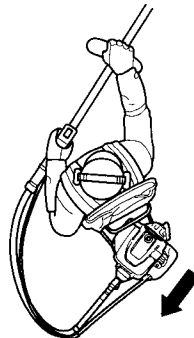
・保護長靴
刈刃部から飛んでくる物から足を保護するため、底に滑り止めのついた保護長靴（先しん入り）を着用してください。作業靴（先しん入り）を着用する場合、すね当てを併用してください。

・防塵マスク
アレルギー性鼻炎（花粉症）などの症状が出やすい人は、花粉の吸い込みを減らすため、薬局などで売っている使い捨て防塵マスクの着用をおすすめします。

警告

● エンジン組付け状態の“右出し”“左出し”を確認してください。
  ・スロットル トリガを右手で操作する場合、“右出し”にしてください。
  “右出し”とは、フレキシブル シャフト取付け部が右手側横方向に向く状態です。
  ・スロットル トリガを左手で操作する場合、“左出し”にしてください。
  “左出し”とは、フレキシブル シャフト取付け部が左手側横方向に向く状態です。

“右出し”での左手スロットル トリガ操作、および“左出し”での右手スロットル トリガ操作は、行わないでください。“右出し”“左出し”を誤用すると、刈刃が身体に近づき、ケガをするおそれがあります。
(“右出し”“左出し”の組替えは、36頁参照)

“右出し”での操作姿勢

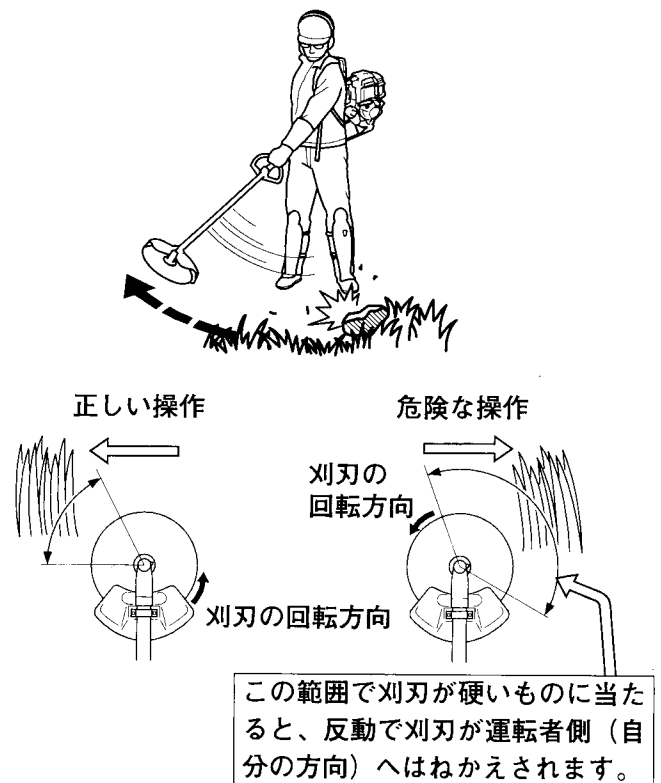
“左出し”での操作姿勢

●作業中

● 本機を背負うとき、刈刃を地面に接触させないでください。また、スロットル トリガに触れないでください。刈刃が回転し、思わぬ事故の原因となることがあります。
● 作業者を中心に半径15 m以内の範囲に人や動物を近づけないでください。事前に人や動物がいないことを確認し、近づいてきた場合エンジンを停止し刈刃の回転を止めてください。
  作業を補助する人、協同作業を行う人も15 m以上離れて作業してください。なお、事前にエンジン停止などの合図を決め、作業時に使用してください。
  回転する刈刃に触れると大ケガをします。また、飛散物でケガをするおそれがあります。
● 作業中は、刈刃部をヒザより高く持ち上げないでください。
  刈刃部からの飛散物が目や顔に当たる可能性が高くなります。
● 本機が突然に異常な振動を起したら、ただちにエンジンを停止してください。突然の振動は、刈刃などの損傷や、ネジのゆるみなどの故障が考えられます。
  故障の原因を調べ、修理するまでエンジンをかけないでください。
● 刈刃に針金などがからまると、針金などがムチのように振り回されます。ただちにエンジンを停止し、針金などを取り除いてください。
● 本機を地面に置く前に、エンジンを停止し、刈刃の回転が止まったことを確認してください。
  スロットル トリガを戻し、エンジンをアイドリング状態にしても、直後は刈刃が惰性で回転しています。
● スロットル トリガを戻し、エンジンをアイドリング状態にしても、刈刃が回転しつづける場合は異常です。アイドリング回転数の調整が必要です、お買いあげ販売店にご相談ください。
● 刈刃を地面にくい込ませないでください。石などが飛散し飛んでくるおそれがあります。

警告

- 刈刃を石、樹木、杭、コンクリート構造物などの硬質固定物に接触させないでください。
  刈刃が硬質固定物などの障害物に接触した瞬間、刈刃部がはね返される、キックバックが起こります。キックバックが起こると、本機が思わぬ動きをするため、正常な操作ができなくなるおそれがあります。
  また刈刃が損傷したり、障害物が砕けたりして、破片が飛散するおそれがあります。
- 刈刃の動かし方は右から左に操作してください。逆に左から右へ操作するとキックバックにより危険な現象が起きます。この操作はしないでください。
- 刈刃が障害物に接触した場合、ただちにエンジンを停止してください。刈刃の回転が止まった後、刈刃の損傷を点検してください。刈刃にヒビ、曲り、過熱による変色、極端な磨耗など損傷がある場合は、使用できません。
  ヒビの入った刈刃を使用すると、刈刃の破片が飛散するおそれがあります。
- 振動と冷えによる傷害について
  刈払機を操作する人の体質によっては、指にチクチク・ヒリヒリする痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなる症状が現われることがあります。これらの症状は、原因が振動と冷えに関係あるとされています。症状の現われる限度が未解明であるため、次の項目をお守りください。
  - ・刈払機での作業時間を制限してください。
    1日の作業を刈払機を使用するものと、他の作業とを組合せ、振動を受ける時間を減らしてください。
  - ・身体を温かく保ってください。特に手、手首、腕を温かくしてください。
  - ・血行をよくするため、ひんぱんに休息をとり、腕の運動を行ってください。
    また作業時間内の喫煙は、やめてください。
  - ・指に不快感、赤み、腫れが現われた場合や、指が白くなったり、指の感覚がなくなったことのある場合は、医師の診察を受けてください。

キックバック

この範囲で刈刃が硬いものに当たると、反動で刈刃が運転者側（自分の方向）へはねかえされます。

- 反復作業による傷害について
  一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害のおそれが高くなります。傷害の原因を減らすため、次の項目をお守りください。
  - ・手首を曲げたまま、伸ばしたまま、ひねったままの状態で作業を行わないでください。
  - ・反復作業の影響を最小限にするため、定期的に休息をとってください。
    また反復作業を行うときは、ゆっくりとゆとりをもって作業してください。
  - ・指、手、手首、腕にズキズキする痛みやマヒを感じた場合は、医師の診察を受けてください。
- （参考）国有林では、作業者の健康管理のため次のような基準が設けられています。
  作業は連続3日を限度として

1回の連続作業時間	30分	以内
1日の作業時間	2時間	以内
1週の作業日数	5日	以内
1月の作業時間	40時間	以内

警告

- 休憩などで運転を中断するときは、刈刃を下に向けて本機を水平に置いてください。
  気温が高いときに、燃料給油キャップがガソリンに浸かった状態で放置すると、燃料タンク内の空気が膨張してキャップからガソリンがにじみ出ることがあります。

●作業が終わったら

- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。作業は“作業前点検”を参照してください。(28頁参照)
- 保管や運搬する前に、燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。本機は火気のないところに保管してください。
  また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- 保管するときは、刈刃に刈刃カバーを取付けてください。

●安全ラベル

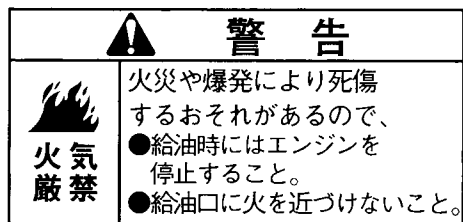
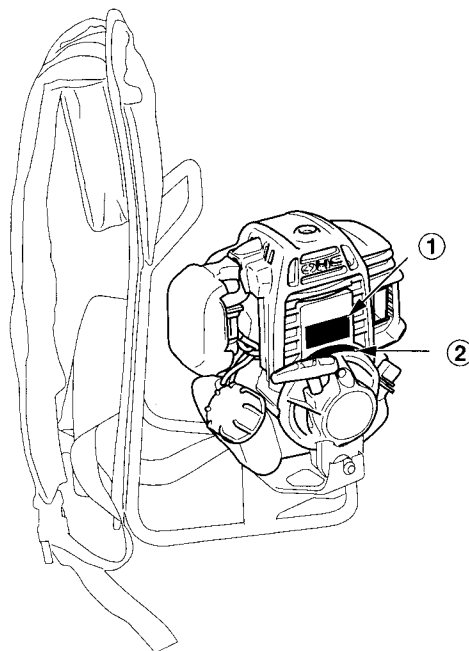
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全て読んでからご使用ください。

ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

⚠ 警告	
火気厳禁	火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ●給油時にはエンジンを停止すること。 ●給油口に火を近づけないこと。

貼付位置：①

⚠ 高温注意

貼付位置：②

注　意

傷害事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

注　意

使用運転前に、必ずオイル点検のこと。

注　意

傷害事故防止のため、移動、保管時は刈刃カバーを取り付けること。

警　告

キックバックによりケガをするおそれがあるので、障害物に刈刃を接触させないこと。

警　告

傷害事故防止のため、保護具を必ず着用すること。

警　告

刈刃からの飛散物によりケガをするおそれがあるので、人や動物を近づけないこと。

警　告

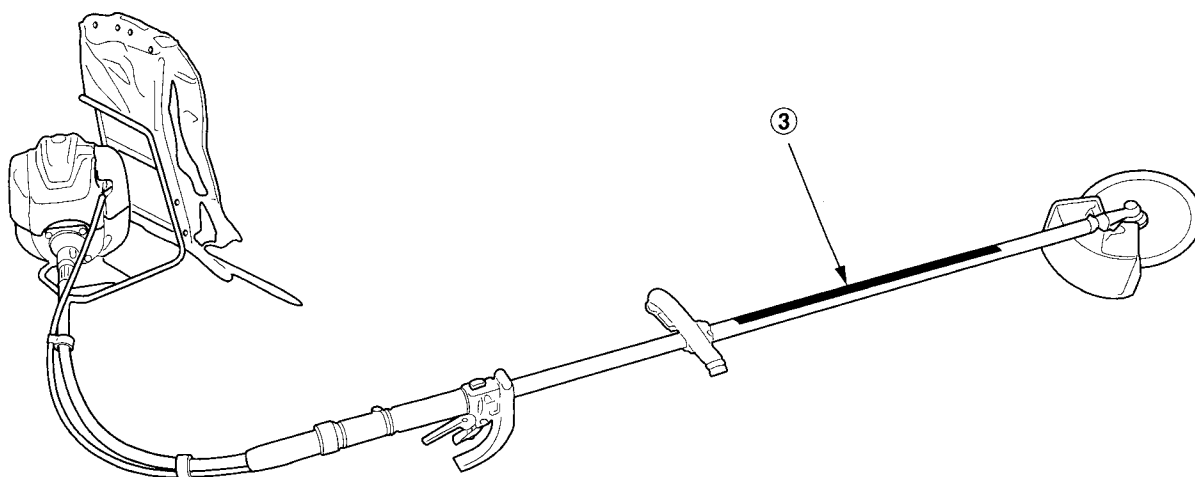
飛散防護カバーを取り外して使用すると死傷するおそれがあるので、必ず取り付けて作業すること。

警　告

排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。

危　険

回転している刈刃にふれると死傷することがあるので、
- 全周360°半径15m以内に人や動物を近づけないこと。
- 刈刃に近づかないこと。

貼付位置：③

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

各部の名称

エンジン カバー
取付けボルト
点火プラグ
エンジン カバー
燃料戻しチューブ
〈透明なチューブ〉
チョーク レバー
エア クリーナ
(空気清浄器)
点火プラグ キャップ
マフラ
(消音器)
プライミング ポンプ
燃料チューブ
〈黒いチューブ〉
エンジン オイル給油キャップ
燃料給油キャップ
始動グリップ
エンジン号機表示位置

同梱部品袋
(同梱部品がすべて入っています)

飛散防護カバー用の
上側のホルダ

飛散防護カバー

工具袋

刈刃・スパーク
プラグ用レンチ

飛散防護カバー用の
ボルト

ループ ハンドル

刈刃カバー

レンチ ハンドル

飛散防護カバー用の
下側のホルダ

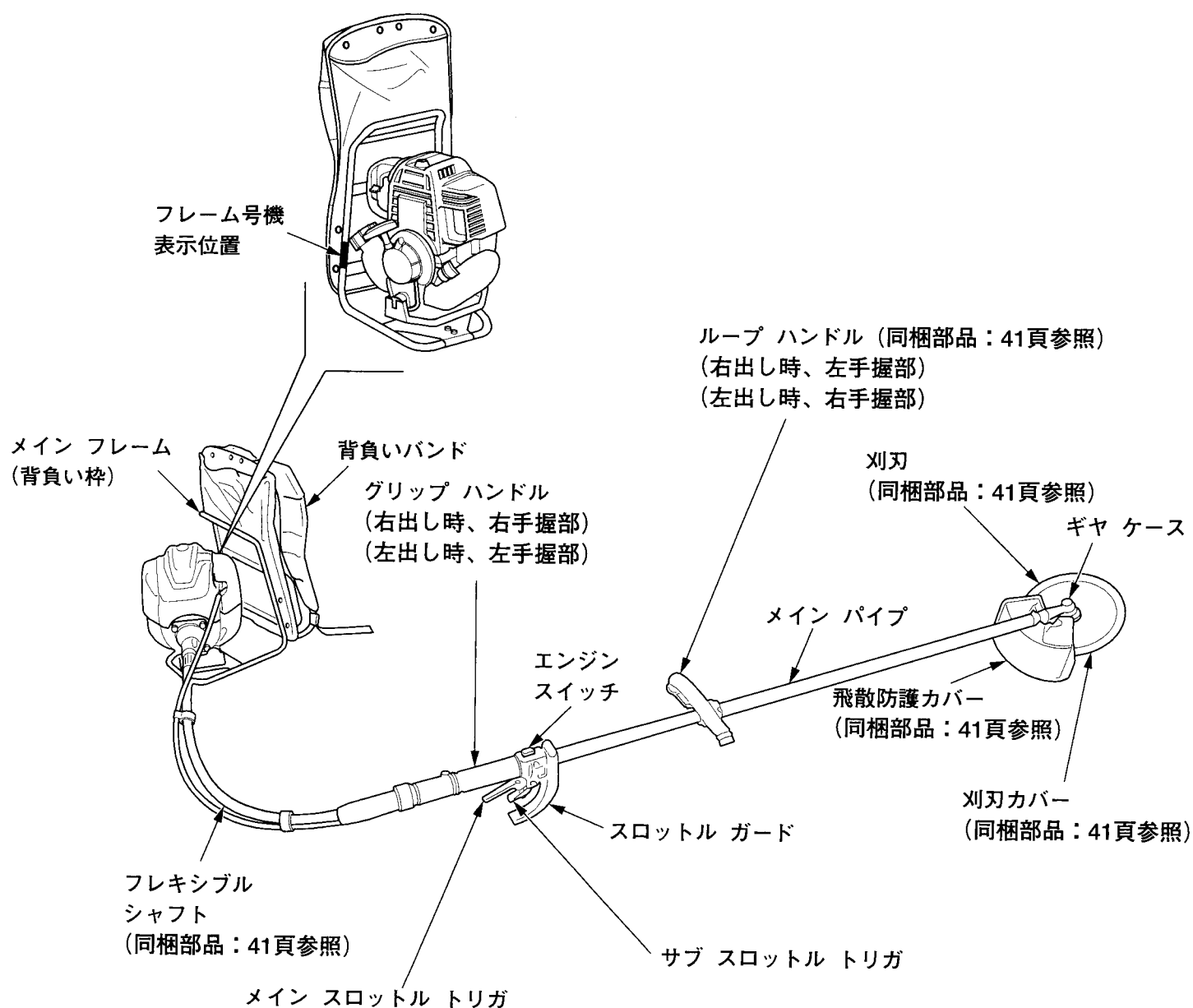
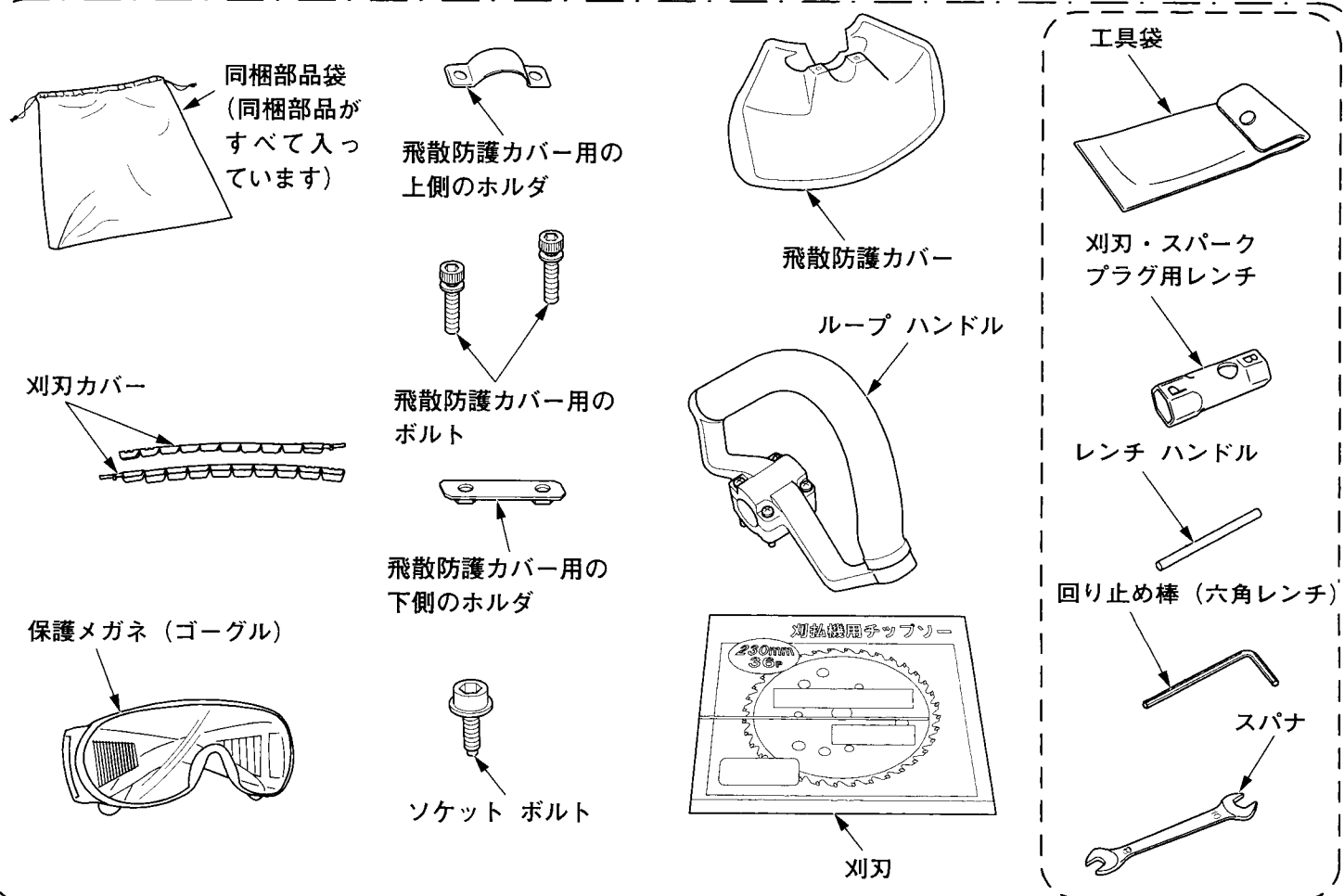
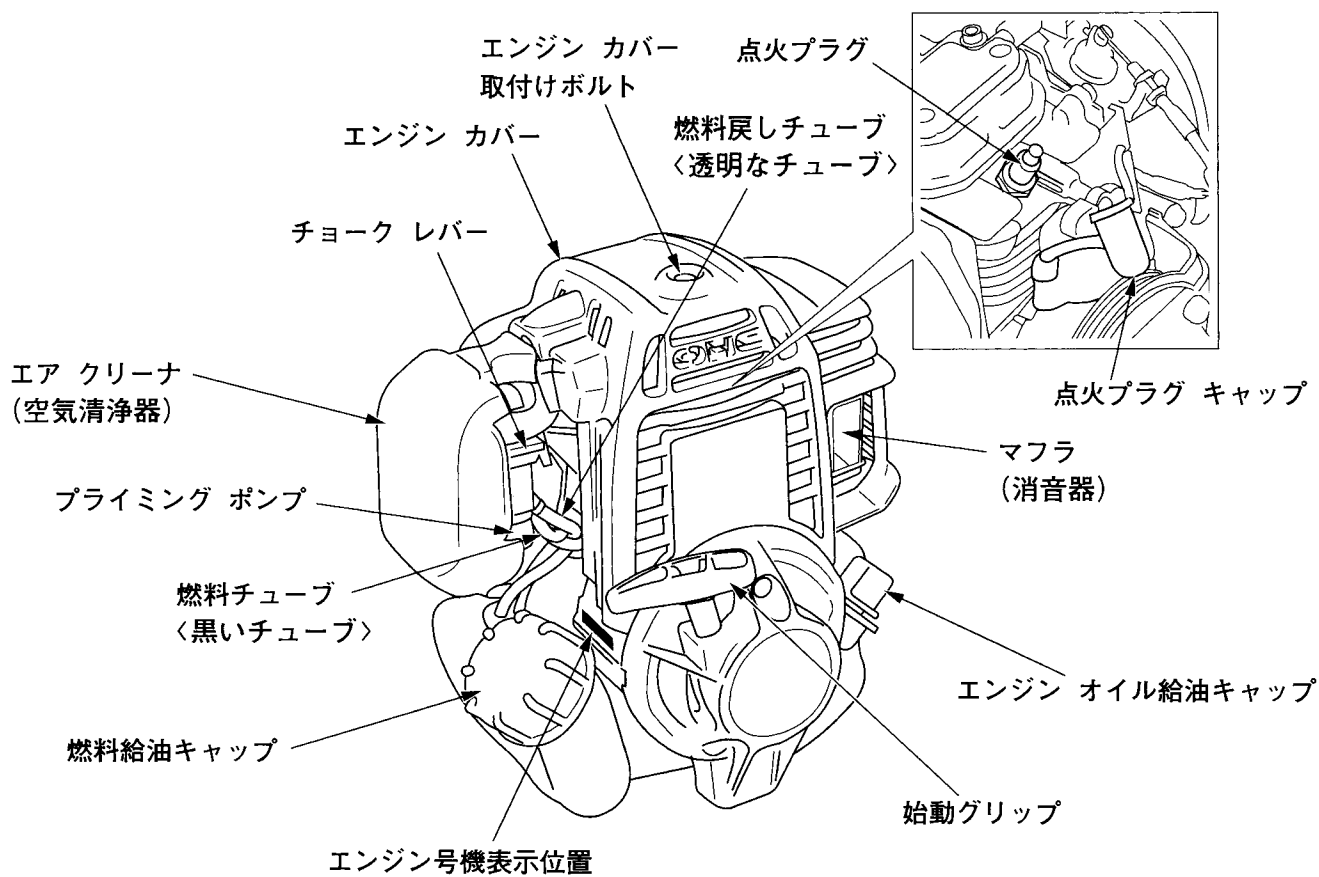
回り止め棒（六角レンチ）

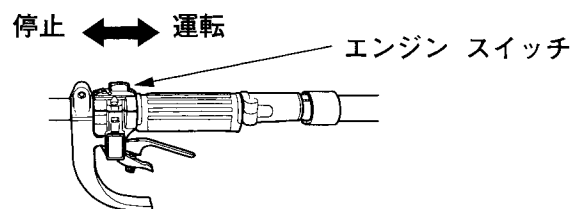
保護メガネ（ゴーグル）

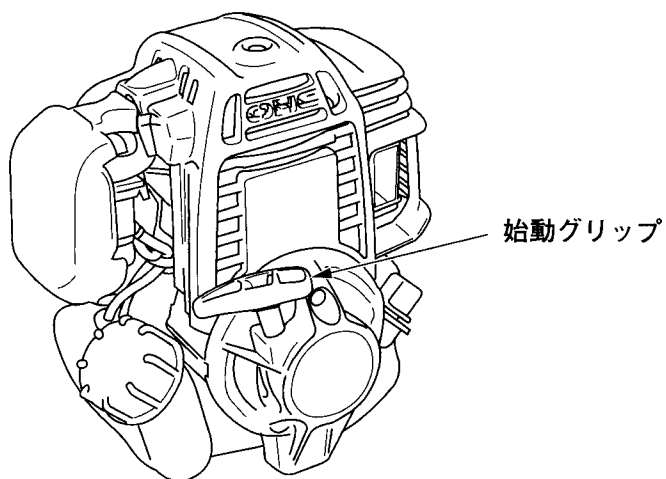
刈払機用チップソー
230mm
36P

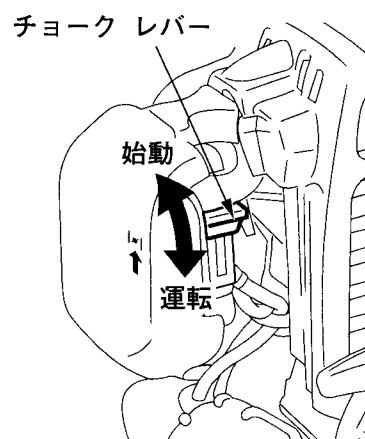
スパナ

ソケット ボルト

刈刃

エンジン スイッチ

エンジンの運転、停止をするときに操作します。

始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。

チョーク レバー

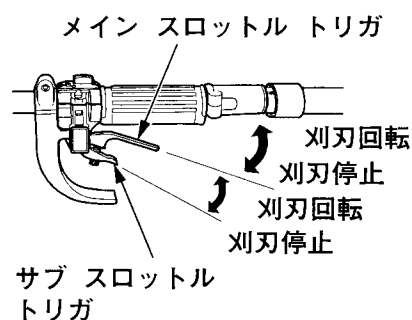
始動時にエンジンが冷えているときにチョーク レバーを“始動”の方向に操作します。

スロットル操作装置（スロットル トリガ）

エンジン回転を調整することで、刈刃の回転速度を調整するものです。

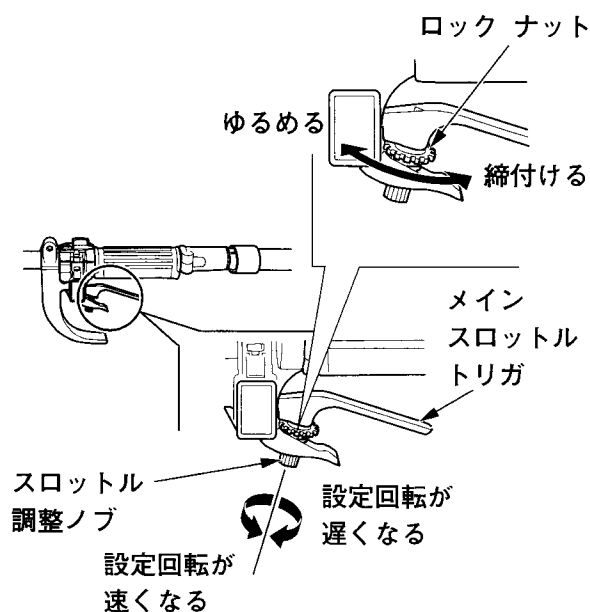
● メイン スロットル トリガ／サブ スロットル トリガ

・メイン スロットル トリガを徐々に握ると、エンジン回転が速くなり、刈刃が回転し始めます。さらに、メイン スロットル トリガを握ると、エンジン回転と共に刈刃の回転が速くなりトリガをグリップと共に握ると設定された速度で保持されます。

・この状態で、サブ スロットル トリガを握ると、刈刃の回転がさらに速くなります。

・メイン スロットル トリガおよびサブ スロットル トリガから手を離すと、エンジン回転が遅くなり、刈刃は惰性でしばらく回転した後、停止します。

● スロットル調整ノブ／ロック ナット

刈刃回転の設定回転が調整できます。設定回転の調整を行う前に、必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が止まったことを確認してください。

1. ロック ナットをゆるめます。
2. スロットル調整ノブを回し、メイン スロットル トリガの位置を変え、設定回転を調整します。
   - ・設定回転を速くする場合、スロットル 調整ノブを締込み、メイン スロットル トリガをハンドルから遠ざけます。
   - ・設定回転を遅くする場合、スロットル調整ノブをゆるめ、メイン スロットル トリガをハンドルに近づけます。
3. ロック ナットをメイン スロットル トリガ側に締付け、スロットル 調整ノブを固定します。

背負いバンド分離器具

緊急時、本機を身体から離しやすくするためのものです。操作は、左右いずれか一方を分離し、他方は分離しないでください。背負いバンド分離器具の操作部を左右から押すと、背負いバンドが上下に分離します。

分離器具の結合には、背負いバンドがねじれないように表裏を確認し、カチッと音がするまで確実に行ってください。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジン スイッチが“停止”になっていることを確認してください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと、本機を損傷するばかりでなく、あなたや、あなたの回りの人に大ケガをさせるおそれがあります。

エンジンをかける前に、次の点検を行ってください。

点検の結果、異常がある場合、エンジンをかける前に修理してください。ご自身で修理できない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

ガソリンの点検・補給

⚠警告

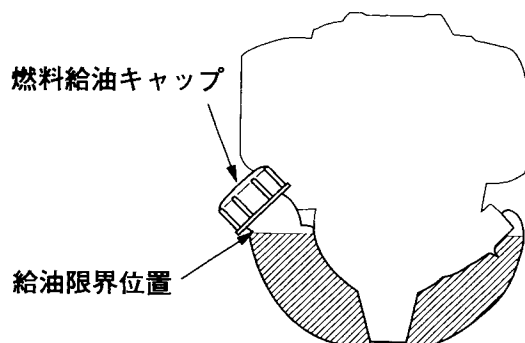
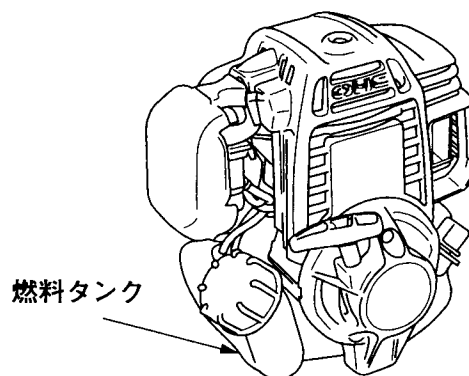
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**
- **燃料は注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。**

点　検

燃料タンクの外側より液面の位置を確認し、ガソリンがあるか点検します。
ガソリンが少ない場合は、補給してください。

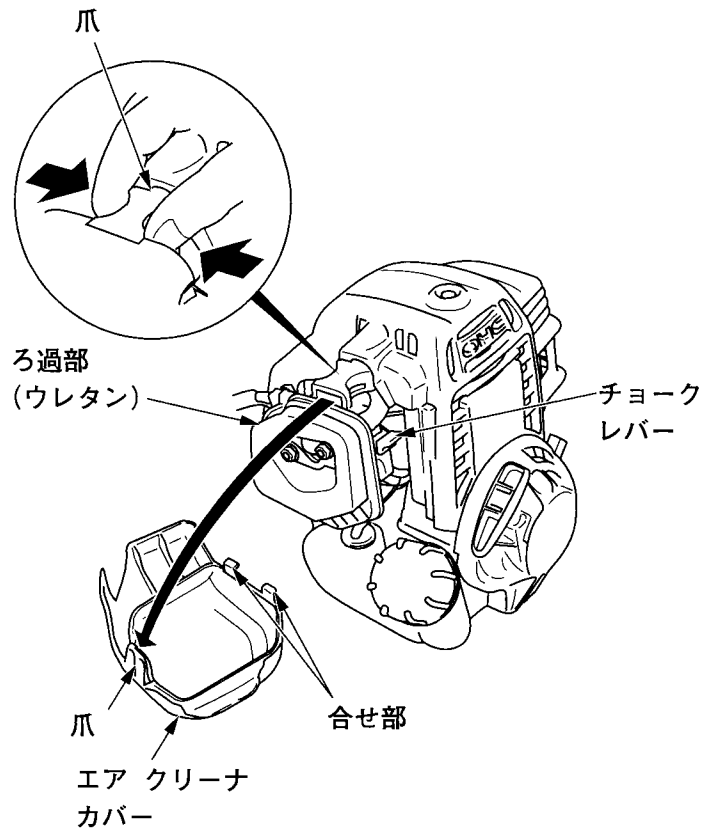
補　給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差を取り除きます。燃料給油キャップを外し、燃料タンク内の空気を完全に抜きながら給油限界位置を超えないように補給します。空気が完全に抜けない場合、補給量が少なくなります。
- 補給後、燃料給油キャップを取付けます。確実に締付けてください。また燃料給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

取扱いのポイント

- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**
- **ガソリンにエンジン　オイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。**
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エア クリーナ（空気清浄器）の点検

1. チョーク レバーを上げます。
2. エア クリーナ カバーを取外します。
   エア クリーナ カバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。"右出し"の場合はエンジンを少し傾けて取外してください。
3. ろ過部（ウレタン）の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(31頁参照)
4. エア クリーナ カバーを取付けます。
   エア クリーナ カバーの取付けは、2か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。"右出し"の場合はエンジンを少し傾けて取付けてください。

取扱いのポイント

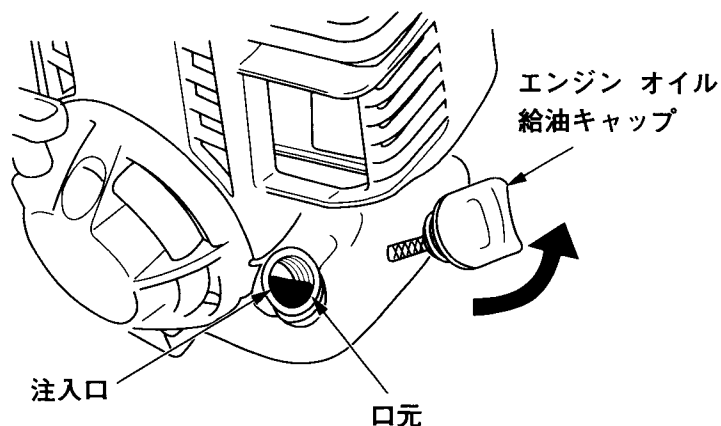
- **エア クリーナ カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

エンジン オイルの点検・補給

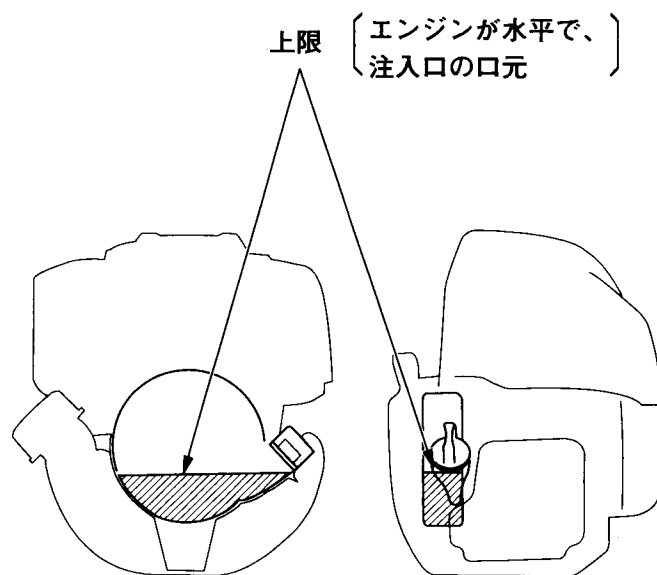
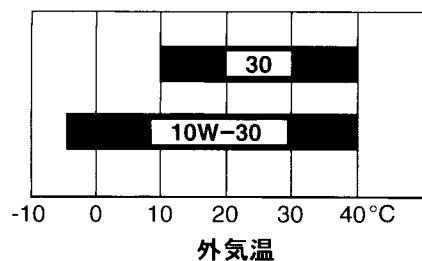
点　検

エンジンを水平にしエンジン　オイル給油キャップを外します。

- 注入口の口元までオイルがあるか点検します。
  オイルが少ない場合は、補給してください。
- エンジン　オイルの汚れ、変色を点検します。
  汚れや変色が著しい場合は、エンジン　オイルを交換してください。(交換時期、方法は31頁参照)

点検後、エンジン　オイル給油キャップを取付けます。確実に締付けてください。

補　給

- エンジン　オイル給油キャップを外し、新しいエンジン オイルを注入口の口元まで補給します。
- 補給後、エンジン　オイル給油キャップを取付けます。確実に締付けてください。
- 推奨オイル（4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

取扱いのポイント

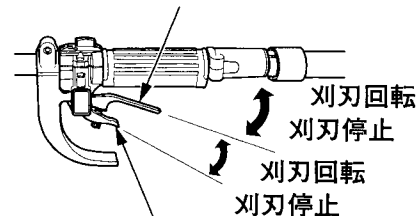
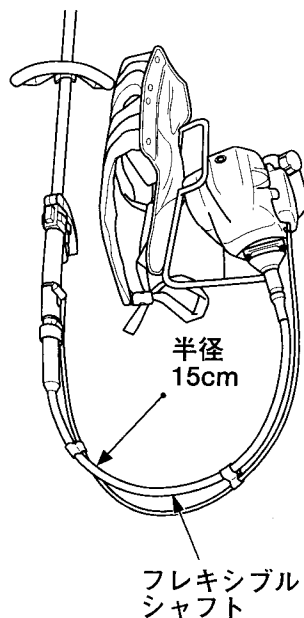
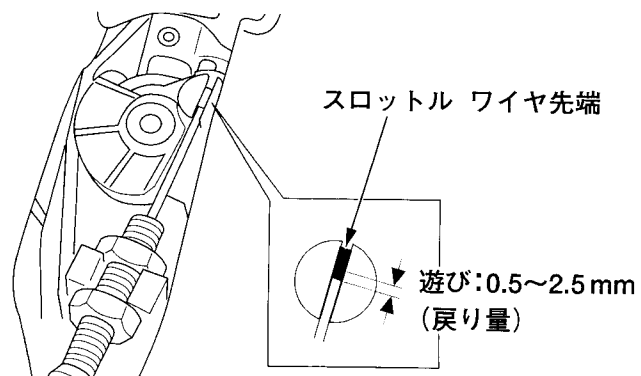
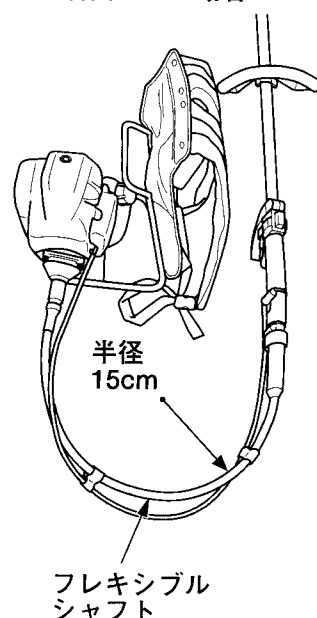
- ・エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、少しずつ分け注入してください。
- ・エンジン　オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

スロットル トリガの点検

- メイン スロットル トリガおよびサブ スロットル トリガがスムーズに作動するか、引っかかりはないか点検します。

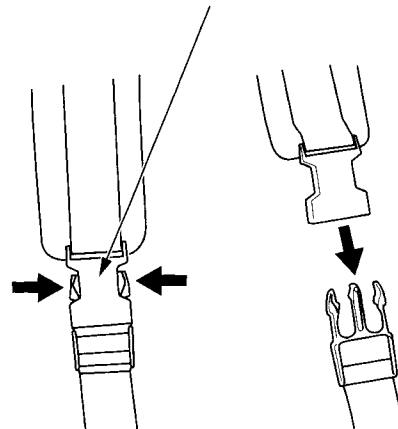
異常がある場合は、修理が必要です。お買いあげ販売店にご相談ください。

スロットル ワイヤの点検

- フレキシブル シャフトが半径15 cmでU字状になるように本機を置きます。スロットル トリガを軽く動かしながら、キャブレータ取付部の動き始めとスロットル ワイヤの遊び（戻り量）を点検します。
  遊び（戻り量）：0.5～2.5 mm
  遊び（戻り量）が規定値を超える場合は、調整してください。(33頁参照)
- スロットル トリガがスムーズに作動するか、引っかかりはないか点検します。

異常がある場合は、修理が必要です。お買いあげ販売店にご相談ください。

背負いバンド分離器具の点検

- 背負いバンド分離器具の操作部を左右から押し、上下に分離することを点検します。
- 上下に分離した状態で、分離器具にひび、割れなど損傷がないか点検します。

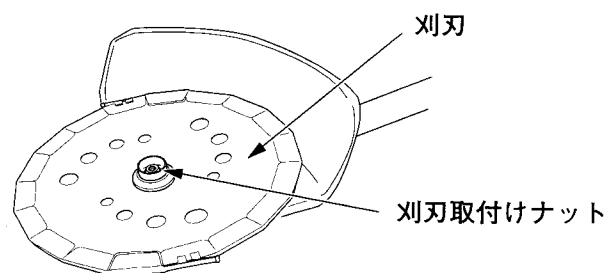
点検後、分離器具は表裏を確認し、カチッと音がするまで確実に結合してください。

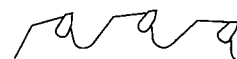
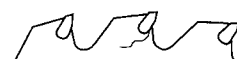
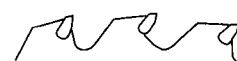
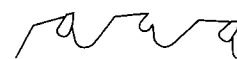
分離器具が分離しない場合は、修理が必要です。また、分離器具に損傷がある場合は、交換が必要です。お買い上げ販売店にご相談ください。

刈刃の点検

⚠警告

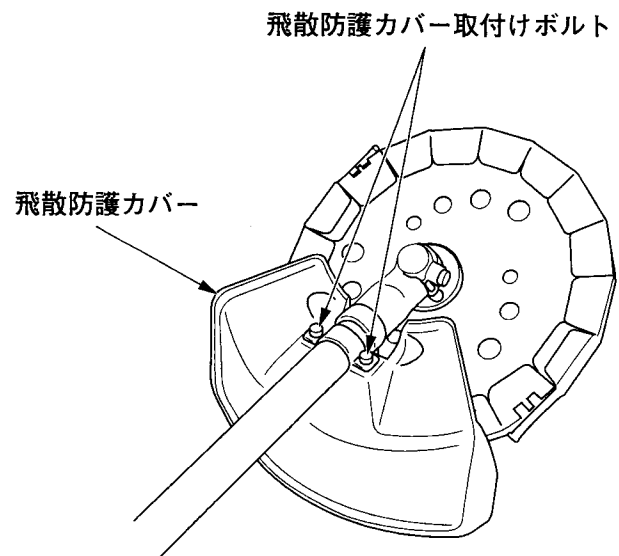
- **作業を安全に行うために、刈刃の点検をエンジンをかける前に行ってください。チップの飛び、刈刃のゆるみ、刈刃のワレ、カケ、曲がり、極端な磨耗、過熱による変色などを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当るなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。**
- **刈刃の点検をするときは、エンジンを停止してから厚手の手袋を装着して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。(43頁参照)**
- **目立て直し品の使用禁止**
  目立て直しの方法によっては、ワレ、カケの原因となりますので再使用はしないでください。必要な場合は新しい刃と交換してください。

エンジンを停止します。

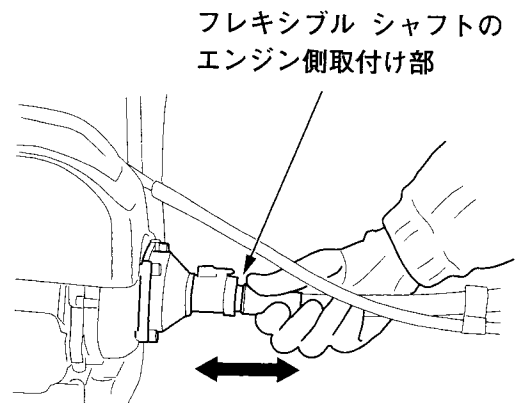
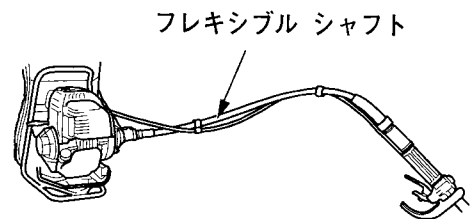
- 刈刃の取付けナットにゆるみがないか点検します。
  ナットにゆるみがある場合は、刈刃・スパーク　プラグ用レンチで確実に締付けてください。　(43頁参照)
  ご自身で正しく締付けられないときは、お買いあげ販売店にご相談ください。

刈刃カバーを外します。

- 刈刃にひび、チップの飛び、刈刃のゆるみ、刈刃のワレ、カケ、曲がり、極端な磨耗、過熱による変色など異常がないか点検します。
  刈刃に異常がある場合は、刈刃を交換してください。
  刈刃は、本機に設定されたものを使用してください。
  (刈刃の設定は、表紙の裏側を参照)
  (刈刃の組付けは、42頁参照)
  ご自身で刈刃の交換ができない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

飛散防護カバーの点検

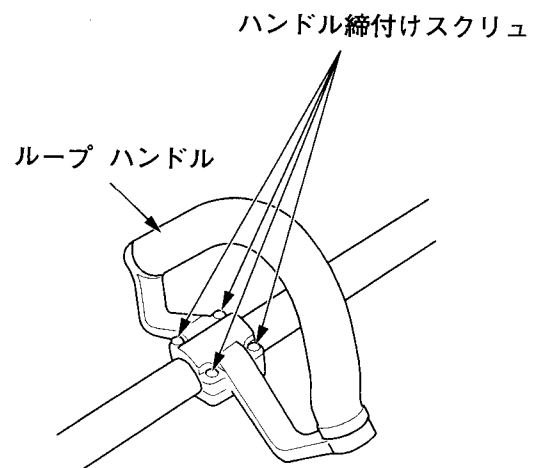
●飛散防護カバーの取付けボルトにゆるみがないか点検します。
ボルトにゆるみがある場合は、六角レンチで確実に締付けてください。

●飛散防護カバーに損傷がないか点検します。
飛散防護カバーに損傷がある場合は、交換してください。

フレキシブル シャフトの点検

●フレキシブル　シャフトの外周に切れ、割れ、削れ、変色、変形など異常がないか点検します。
異常がある場合は、交換が必要です。お買いあげ販売店にご相談ください。

●フレキシブル　シャフトのエンジン側取付け部を前後に動かし、移動量が5 mm以下か点検します。
移動量が5 mmを超える場合は、修理が必要です。お買いあげ販売店にご相談ください。

各締付け部の点検

●各ボルト、ナットにゆるみがないか点検します。
ボルト、ナットにゆるみがある場合は、六角レンチで確実に締付けてください。

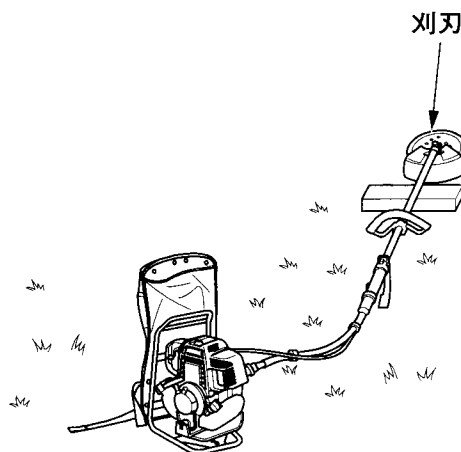
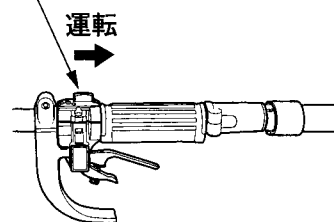
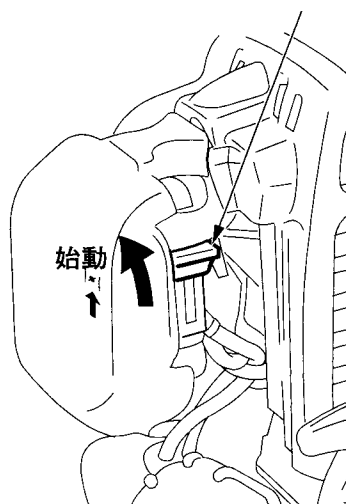
●ハンドルはハンドル締付けスクリュにゆるみがないか点検します。スクリュにゆるみがある場合は、ドライバで確実に締付けてください。

エンジンのかけかた・とめかた

エンジンのかけかた

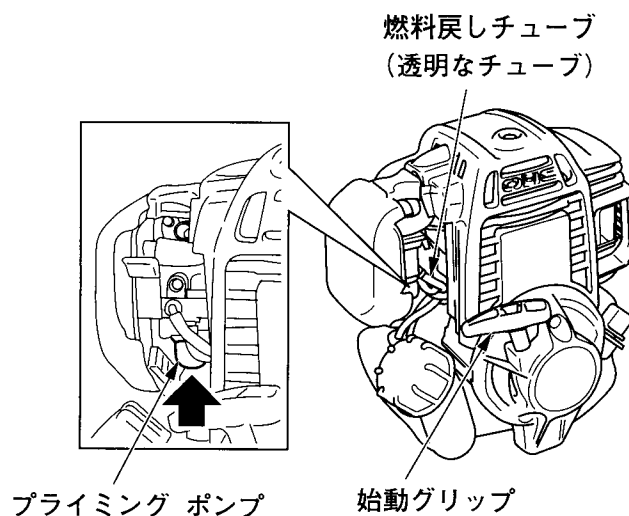
⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

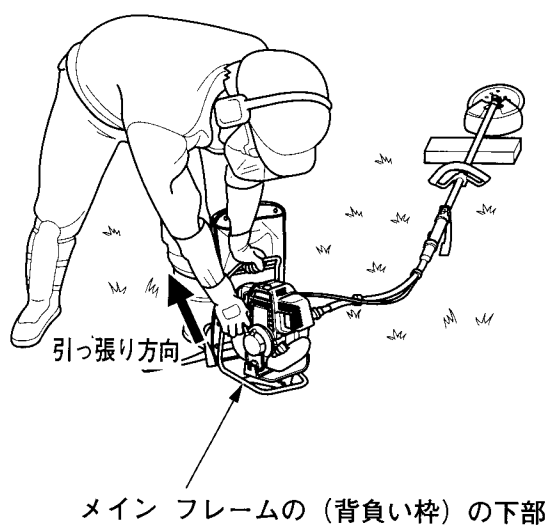
⚠注意

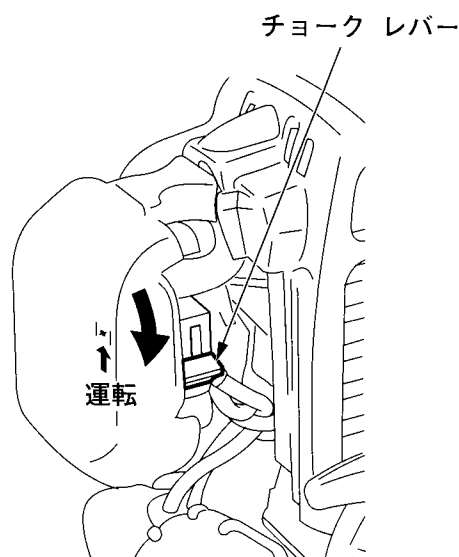
- 本機を背負った状態や空中に持ち上げた状態で、エンジンをかけないでください。本機が思わぬ方向に動き、脚などにケガをするおそれがあります。
- エンジンをかけるときは、本機の周囲に十分な広さをとり、人や動物などを近づけないでください。また周囲に障害物がないことを確認してください。
- 本機を障害物のない場所に置き、刈刃が地面や他の物に触れないことを確認してください。

1. エンジン スイッチを“**運転**”の位置にします。

2. 寒いときやエンジンが冷えているときは、チョーク レバーを上げ“**始動**”の位置にします。
   - エンジンが暖まっているときは、チョーク レバーを下げた位置で始動します。

3．燃料戻しチューブ（透明なチューブ）の内側でガソリンが移動するまでプライミング　ポンプを押します。

取扱いのポイント

- **プライミング　ポンプを押しすぎても余分な燃料は燃料タンクに戻ります。**
  押す回数が少ないと始動不良の原因になりますので、十分に押してください。
- **プライミング　ポンプを押してガソリンが移動した後は、エンジンが始動するまでスロットル　トリガを操作しないでください。始動グリップを引く回数が増えたり、始動しにくくなることがあります。**

4．メイン　フレーム（背負い枠）の下部を片足で踏み、左手で本機をしっかり押えます。この状態で、右手で始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

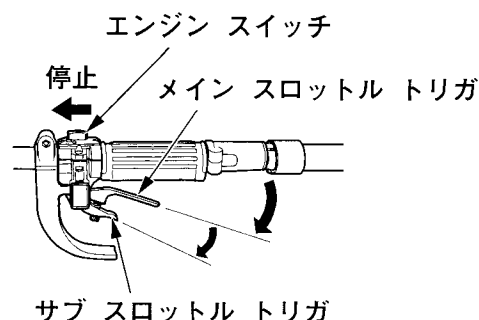
取扱いのポイント

- **始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。**
- **始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。**
- **運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。**

5．チョーク　レバーを“**始動**”の位置で始動したときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々にチョーク　レバーを下げます。

6．2～3分間暖機運転を行います。

エンジンのとめかた

1．メイン スロットル トリガおよびサブ スロットル トリガから手を離します。

2．エンジン スイッチを“**停止**”の位置にします。

● 刈刃の回転が止ったことを目視で確認してください。

⚠注意

駆動力が切れても、直後は刈刃が惰性で回転しています。

● 本機を地面に置く場合は、エンジン停止、刈刃の回転停止を確認してから行ってください。

エンジンがかかりにくいときは

運転後、エンジンを止めてしばらくたった後に再始動しようとすると、燃焼室内の混合気が濃くなり、エンジンがかかりにくくなることがあります。

次の1～3の操作を行って濃い混合気を排出してください。

1．エンジン スイッチを“停止”の位置にします。

2．チョーク レバーを下げた位置にしてください。

3．スロットル トリガをいっぱいに握った状態で、始動グリップを3～5回引き、スロットル トリガから手を離してください。

⚠注意

エンジン スイッチは必ず“停止”の位置にしてください。

“運転”の位置で行うと、エンジンが始動した場合、刈刃が回転し思わぬけがをするおそれがあります。

・「エンジンのかけかた」(21頁参照) の手順に従って、エンジンを始動してください。

・チョーク レバーは下げた状態で始動してください。

刈　払　作　業　の　し　か　た

刈払作業を行う前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり、刈払作業にとりかかってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にご相談ください。

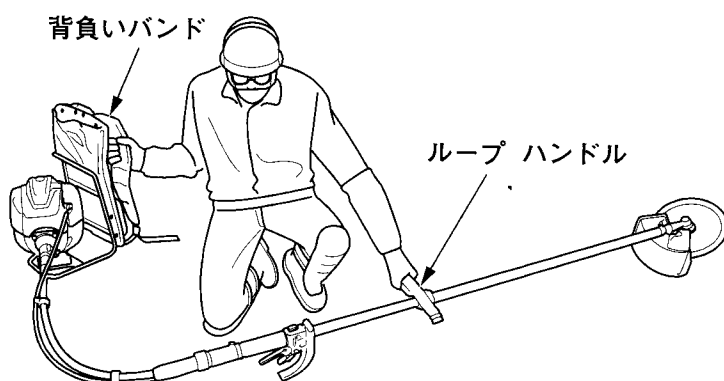
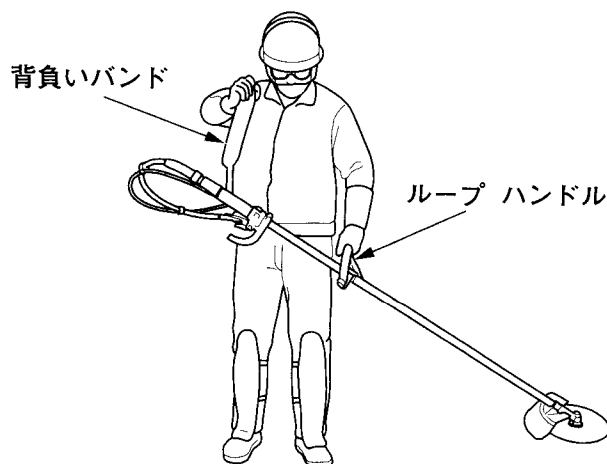
本機の背負いかた

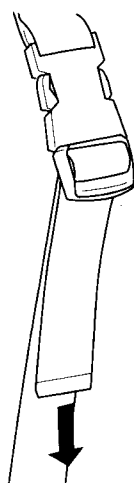
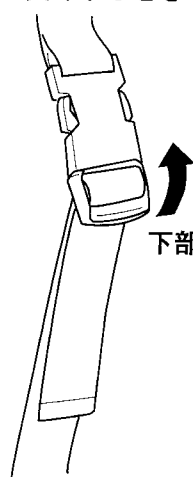
本機を背負う前に、エンジンを始動し、エンジン回転をアイドリング状態で安定させてください。刈刃の回転停止を確認後、次の手順で本機を背負ってください。

⚠注意

本機を背負うとき、刈刃を地面や他の物に接触させないでください。また、スロットル トリガに触れないでください。刈刃が回転し、思わぬ事故の原因となることがあります。

この手順は“右出し”の本機を背負う内容です。“左出し”の場合、左右を読替えてください。

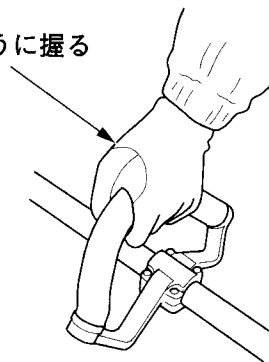
1．本機を前にして、右手で右側の背負いバンド上部、左手でループ ハンドルを持ちます。

2．右側の背負いバンドに右手を通し肩に掛け、ループ ハンドルを左手から右手に持ち替えます。

3．左側の背負いバンドに左手を通し、背負います。

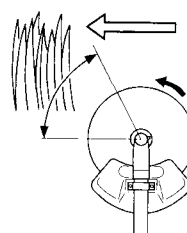
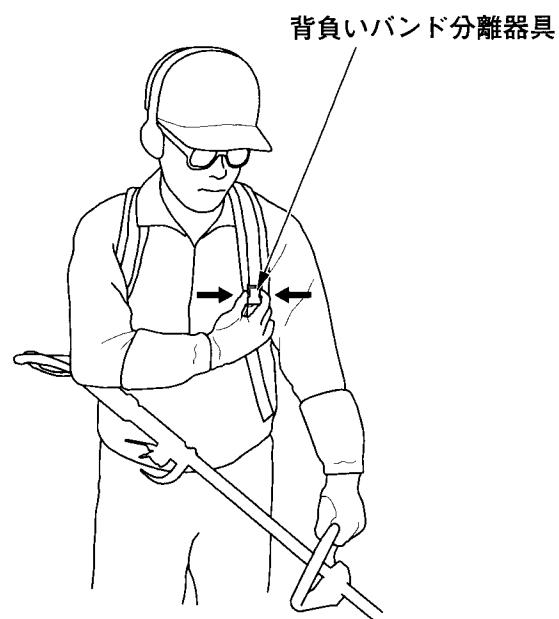
4．左右の背負いバンドの長さを調節します。
背当てパッドが背中に密着し、重みが両肩に等しくかかるようにしてください。

5．左手でループ　ハンドルを握り、右手でグリップハンドルを握ります。

基本的な操作

- 正しい位置に本機を保持し、常に両手でそれぞれのハンドルを握ってください。

⚠注意
本機を片手で使用しないでください。

- ハンドルの握りかたは、親指と他の指とでハンドルを囲むように握ってください。

- 刈払作業は、メイン　パイプを振り回さず、腰の移動で刈刃を水平に右から左に弧を描くように行ってください。
  また体重の移動が安全で容易に行える姿勢をとり、右足から前に進み左足がこれに続くというように、少しづつ前進してください。
- 緩やかな傾斜地で本機を使用する場合、上下方向よりも、なるべく横方向（等高線方向）に行うようにしてください。
  急傾斜地はすべりやすく、体のバランスをくずし転倒するおそれがあります。本機を使用しないでください。
- 刈刃の動かし方は、右から左に操作してください。逆に左から右へ操作するとキックバックにより危険な現象が起きます。この操作はしないでください。

⚠注意
足元に十分注意し、体のバランスをくずすおそれのある場合は、本機を使用しないでください。

● 緊急の場合、背負いバンド分離器具の操作部を左右から押し、本機を身体から離してください。
背負いバンド分離器具は、左右いずれか一方を分離し、他方は分離しないでください。

● 本機で木を切ることはできません。また本機を枝打ち作業に使用しないでください。

定期手入れを行いましょう

お買いあげいただきました刈払機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時期〈注3〉		作業前点検	1か月目または初回10時間目	3か月毎または25時間運転毎	6か月毎または50時間運転毎	1年毎または100時間運転毎	2年毎または300時間運転毎	
エンジン オイル	点検	○						17頁参照
	交換		○		○			29頁参照
エア クリーナ エレメント（空気清浄器）	点検	○						16頁参照
	清掃			○〈注1〉				31頁参照
点火プラグ	点検、調整					○		32頁参照
	交換						○	32頁参照
エンジン冷却フィン	点検、清掃				○			35頁参照
クラッチ シュー	点検				○〈注2〉			———
ギヤ ケースのグリース	給油	1年毎または30時間運転毎〈注2〉						———
刈刃の磨耗、曲り、破損状態、締付けボルト	点検	○						19頁参照
飛散防護カバーの破損状態	点検	○						20頁参照
フレキシブル シャフトのグリース	給油	1年毎または30時間運転毎〈注2〉						———
背負いバンド分離器具の作動	点検	○						18頁参照
各締付け部（ボルト・ナット類）	点検	○						20頁参照
スロットル レバー	点検	○						18頁参照
	調整				○〈注2〉			———
スロットル ワイヤの遊び	点検	○						18頁参照
アイドル スピード	点検、調整					○〈注2〉		———
吸入・排気弁のすき間	点検、調整					○〈注2〉		———
燃焼室	清掃	300時間運転毎〈注2〉〈注4〉						———
燃料フィルタ	清掃					○		34頁参照
燃料タンク	清掃					○		35頁参照
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）〈注2〉						34頁参照
オイル チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）〈注2〉						———

〈注1〉 ホコリの多い場所で使用した場合は、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

〈注2〉 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

〈注3〉 点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。

〈注4〉 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点検・整備

⚠警告

点検・整備は平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジン スイッチが停止になっていることを確認してください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。
交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

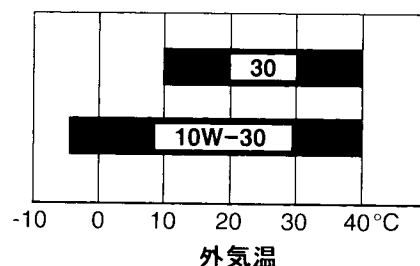
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどなどをするおそれがあります。

《交換時期》

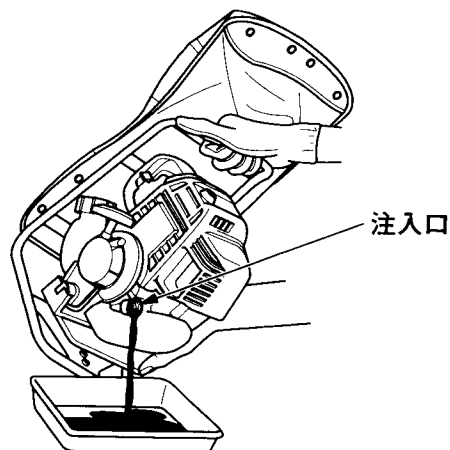
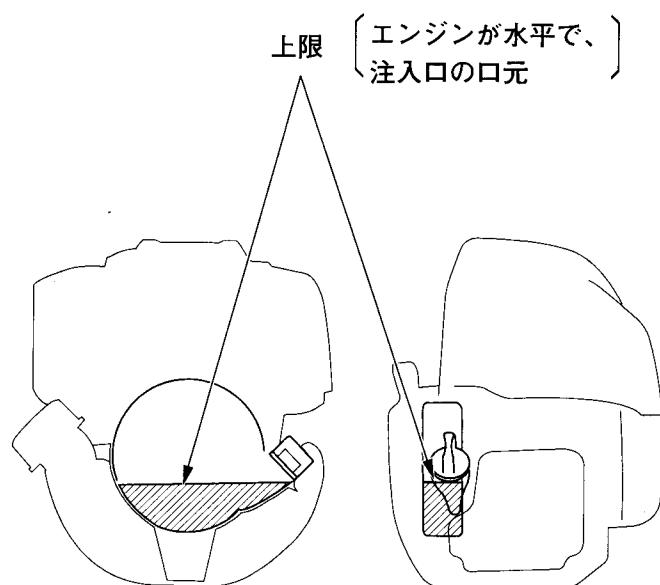
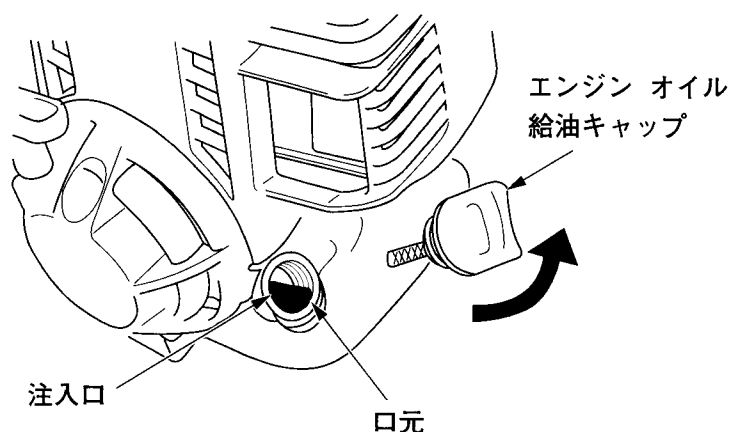
1か月目または初回10時間運転時、以後6か月毎または50時間運転毎

《推奨オイル》(4ストローク ガソリン エンジン オイル)

Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

《規定量》　0.08 ℓ

《交換のしかた》

1．エンジン スイッチを"**停止**"の位置にします。
2．燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
3．エンジン オイル給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。オイルは、容器に受けてください。

4．エンジン オイルが完全に抜けたら本機を元に戻し水平に置いてください。
5．エンジン オイルを注入口の口元まで注入します。
6．注入後、エンジン オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- エンジン オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- エンジン オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- エンジン オイルは規定量以上入れると、回転不調や白煙が出ることがあります。入れ過ぎないように注意してください。

エア クリーナ（空気清浄器）の清掃

エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

⚠警告

エア クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

《清掃期間》 3か月毎または25時間運転毎

《清掃のしかた》

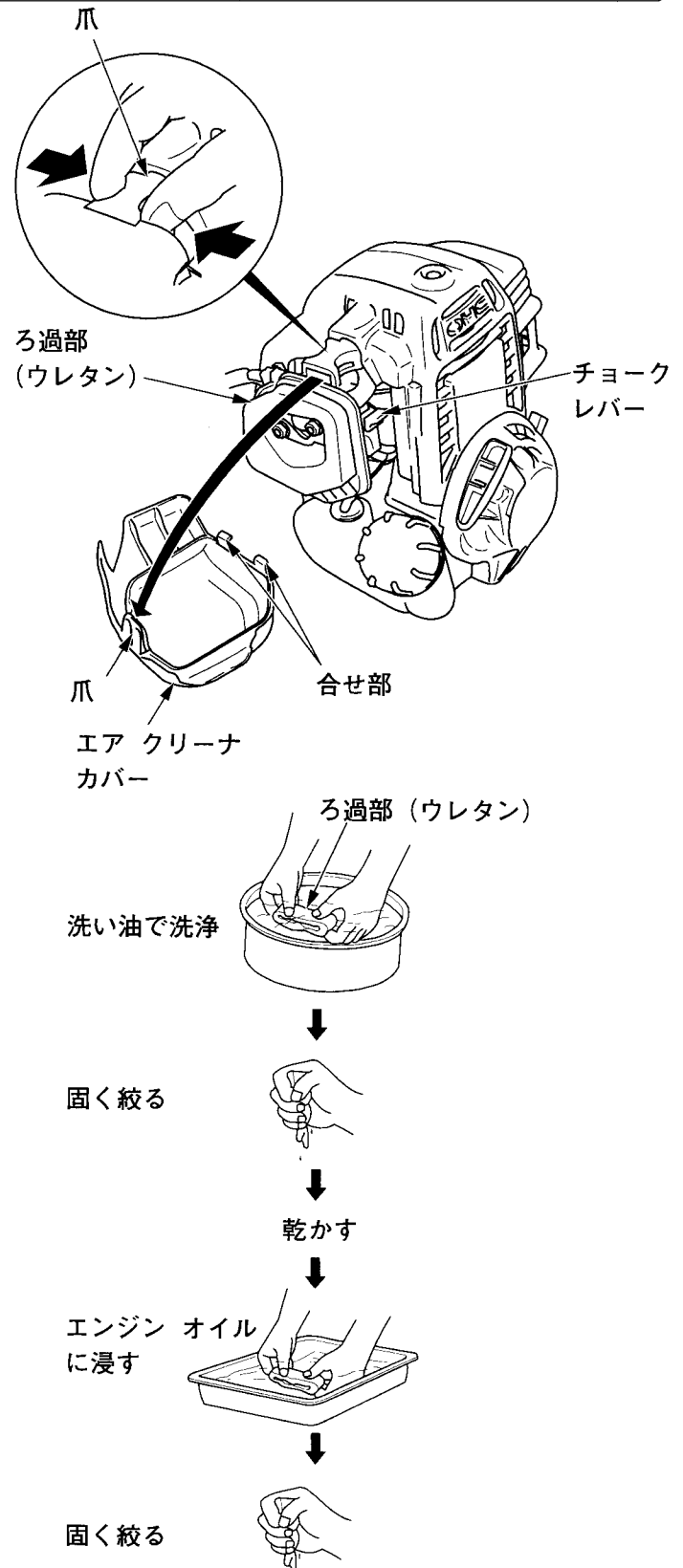
1．チョーク レバーを上げた状態で、エア クリーナ カバーを取外します。
エア クリーナ カバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し、上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。"右出し" の場合はエンジンを少し傾けて取外してください。

2．ろ過部（ウレタン）を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞って乾かします。エンジン オイルに浸したあと固く絞ってから取付けます。

3．ろ過部（ウレタン）をエア クリーナに取付けます。

4．エア クリーナ カバーを取付けます。
エア クリーナ カバーの取付けは、2か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。"右出し" の場合はエンジンを少し傾けて取付けてください。

取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**
- **不要になった洗い油はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。不明な場合は洗い油をお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。**

点火プラグの点検・調整

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

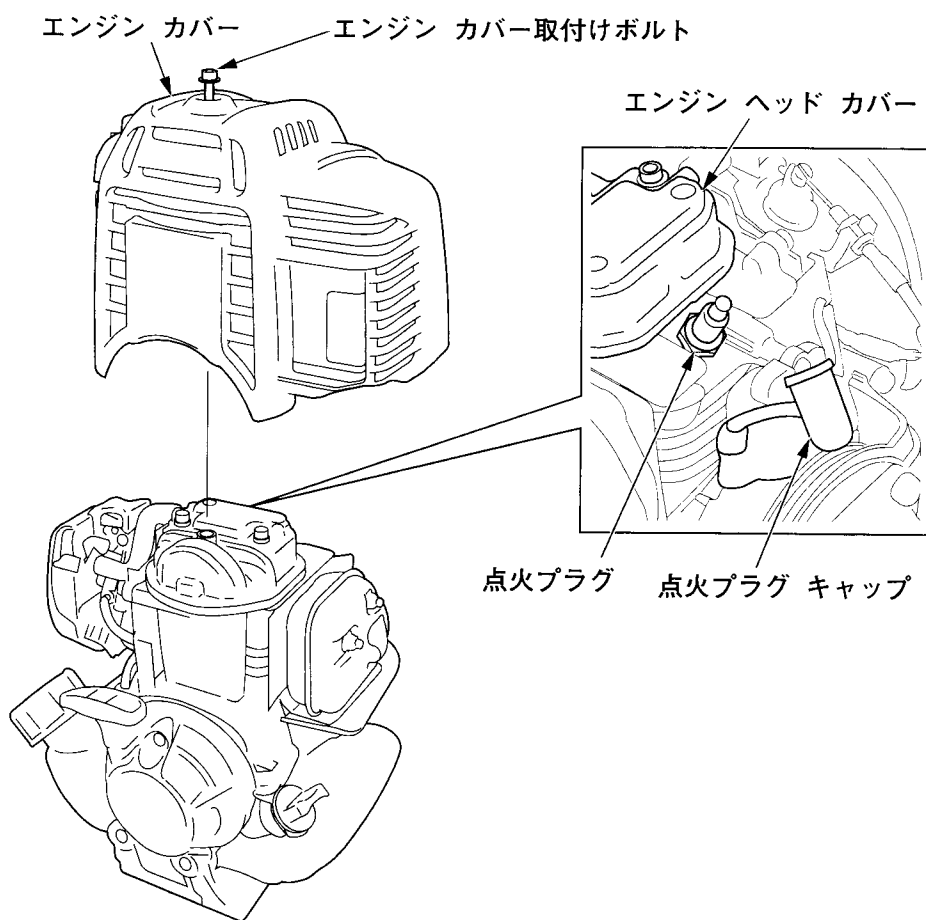
エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

《点検・調整時期》 1年毎または100時間運転毎

《点検》

1. 六角レンチでエンジン カバー取付けボルトをゆるめ、エンジン カバーを取外します。
2. 点火プラグ キャップを外しプラグ レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

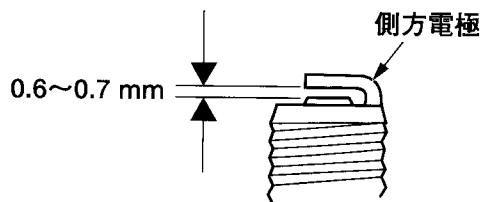
● プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。

4. 調整後、エンジン カバーを確実に取付けてください。

《調整》

1. 側方電極をつめ、火花すきまを0.6～0.7 mmに調整します。
2. 調整後、エンジン カバーを確実に取付けてください。

側方電極
0.6～0.7 mm

《標準プラグ》

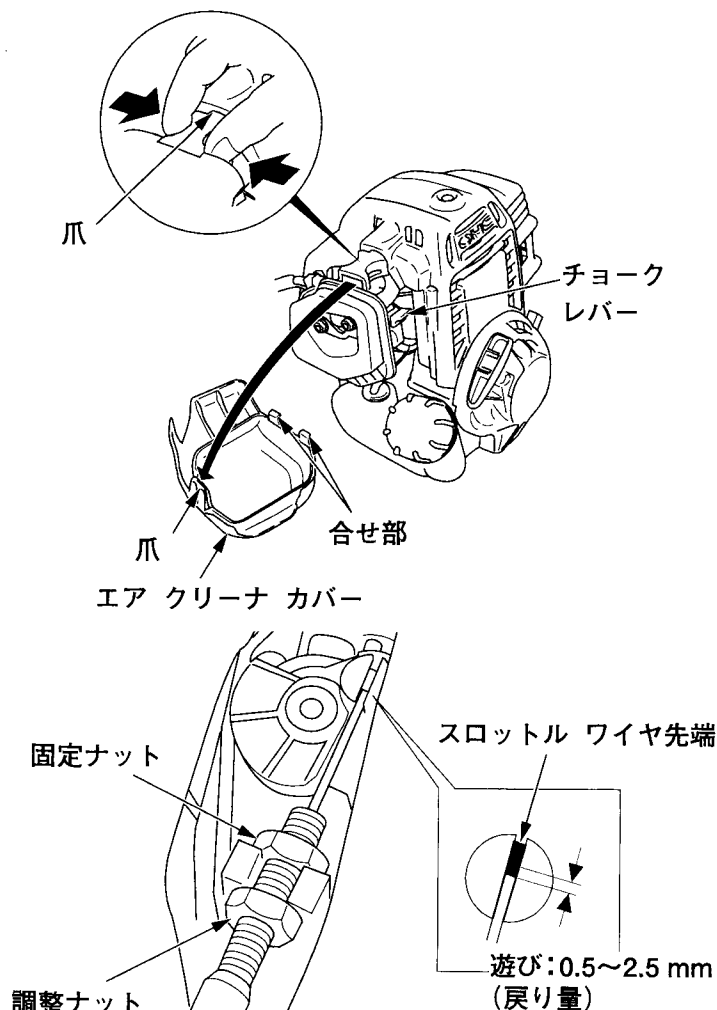
CM5H (NGK)
CMR5H (NGK)

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締込んでください。**
- **点検調整後は点火プラグ キャップを、エンジン ヘッド カバーに対して垂直にし、確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。**

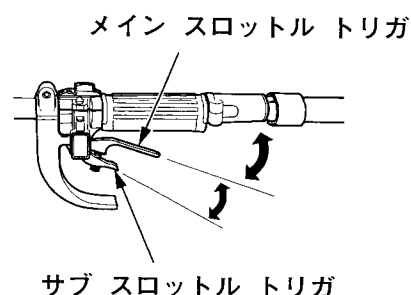
スロットルの調整

スロットル　ワイヤの遊び（戻り量）を正しく調整してください。

《調整のしかた》

1．フレキシブル　シャフトが半径15 cmでU字状になるように、本機を置きます。（18頁参照）
2．チョーク　レバーを上げた状態で、エア　クリーナ　カバーを取外します。
　エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し、上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
3．スロットル　ケーブルの固定ナットをスパナでゆるめます。
4．スロットル　ワイヤ先端の遊び（戻り量）を確認しながら、調整ナットを回して遊び（戻り量）を規定値にします。
　遊び：0.5～2.5 mm
5．固定ナットをスパナで確実に締付けます。
6．エア　クリーナ　カバーを取付けます。
　エア　クリーナ　カバーの取付けは、2か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。

取扱いのポイント

- **エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア　クリーナ　カバーを装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

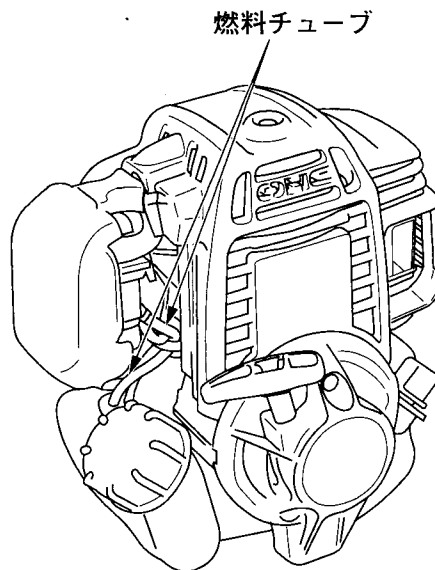
● 調整後、メイン　スロットル　トリガおよびサブ　スロットル　トリガがスムーズに作動するか、引っかかりはないか確認してください。
次に、再度スロットル　ワイヤ先端の遊びが規定値であることを確認してください。
異常がある場合、お買いあげ販売店にご相談ください。

燃料チューブ

燃料チューブの点検

《点検時期》　２年毎

《点検》

燃料チューブに劣化、ひび割れ、燃料漏れがないか点検します。

異常がある場合は交換が必要です。交換はお買いあげの販売店で実施してください。

燃料フィルタの清掃

燃料フィルタが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

点検を行うときは

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

《清掃時期》　１年毎または100時間運転毎

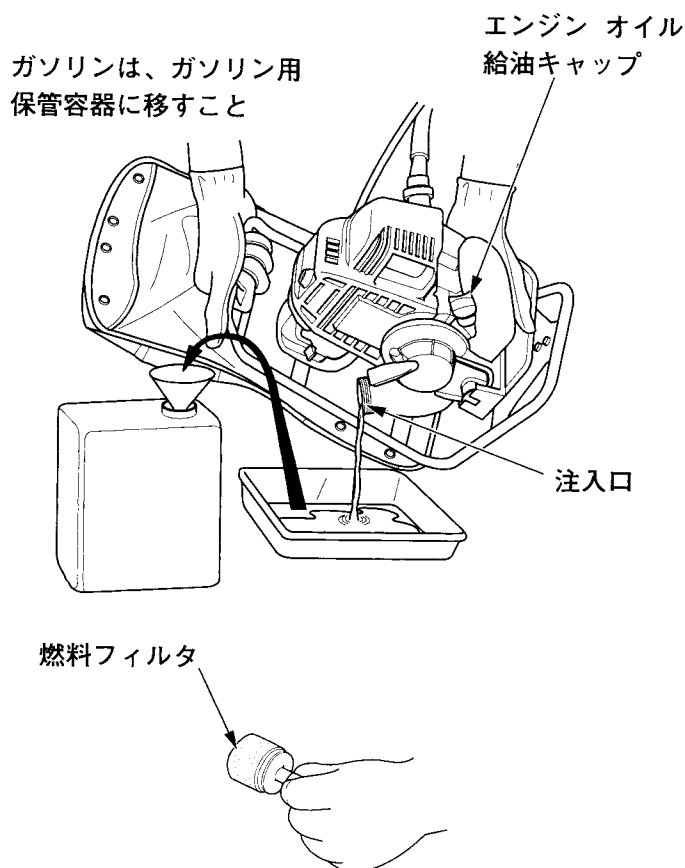
《清掃》

1．エンジン　オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。

2．燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。

3．燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。

4．燃料フィルタの表面が汚れていないか点検します。
燃料フィルタの表面が汚れている場合は、洗い油で洗って汚れを落します。
燃料フィルタの汚れが著しい場合は、交換してください。

5．燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。

燃料タンクの清掃

燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

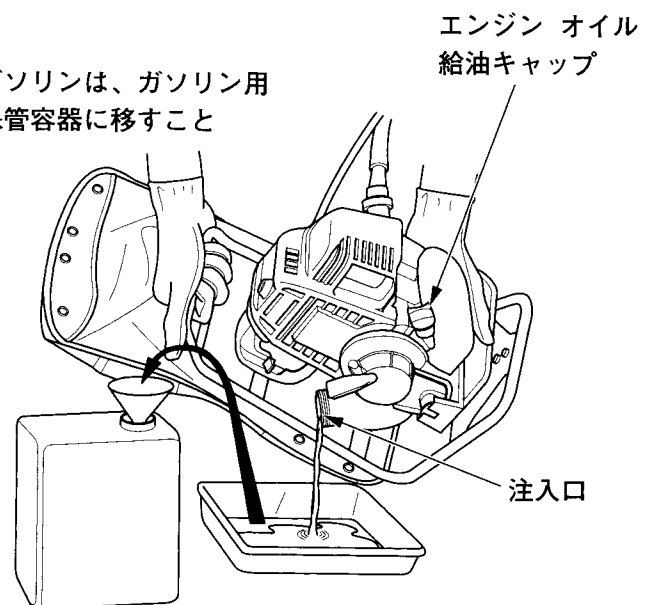
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

点検を行うときは

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

《清掃時期》 1年毎または100時間運転毎

《清掃》

1. エンジン　オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは、容器に受けてください。
3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。
4. 燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取り除きます。
5. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。

取扱いのポイント

不要になった洗い油はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。不明な場合は洗い油をお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。

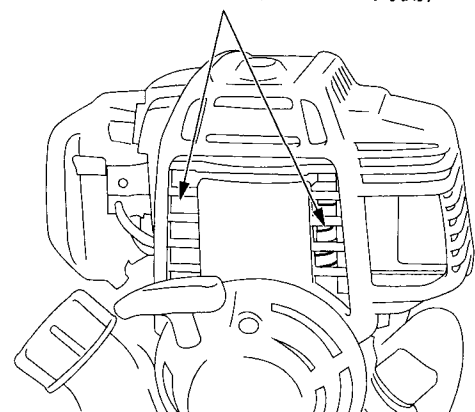
エンジン冷却フィンの点検・清掃

《点検・清掃時期》 6か月毎または50時間運転毎

《点検》

エンジン冷却フィンに草、芝、泥などによる詰まりがないか目視で点検します。

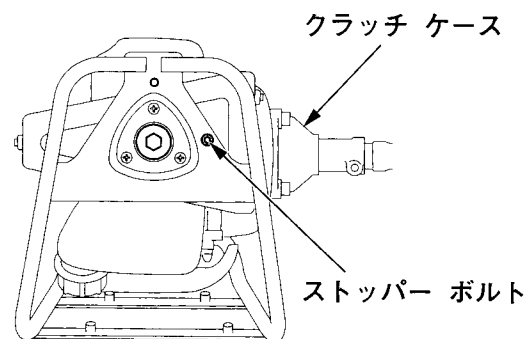
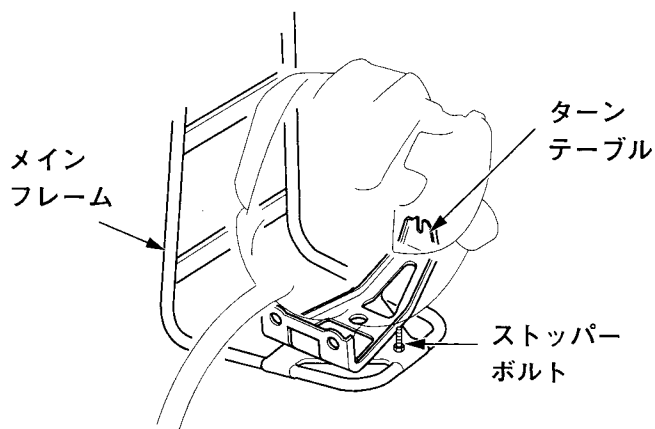
《清掃》

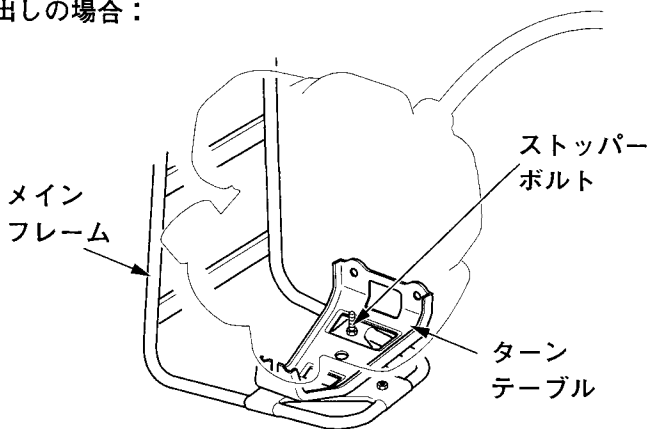
詰まりがある場合は、六角レンチでエンジン　カバー取付けボルトをゆるめ、エンジン　カバーを取外し清掃してください。

エンジン組付け状態の組替え（“右出し”または“左出し”で作業する場合）

本機は、エンジン組付け状態を組替え、“右出し”“左出し”を変更できます。
スロットル トリガを右手で操作する場合は、“右出し”にしてください。左手で操作する場合は、“左出し”にしてください。

> **⚠注意**
> **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度が高くなっています。十分に冷えてから組替えを行ってください。やけどなどをするおそれがあります。**

《組替え》

1. 燃料給油キャップおよびエンジン オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. メイン フレーム（背負い枠）の裏からストッパー ボルトを取外します。
3. クラッチ ケースの向きを変えます。
   - 左出しの場合：
     背当てパッドを前方にして、メイン フレームを置きます。クラッチ ケースを左側に向け、ターン テーブルを図の向きにし、ストッパー ボルトを図の位置に六角レンチで確実に締付けます。
     締付けトルク：4.4～5.9 N·m（0.45～0.60 kgf·m）

左出しの場合：

   - 右出しの場合：
     背当てパッドを前方にして、メイン フレームを置きます。クラッチ ケースを右側に向け、ターン テーブルを図の向きにし、ストッパー ボルトを図の位置に六角レンチで確実に締付けます。
     締付けトルク：4.4～5.9 N·m（0.45～0.60 kgf·m）
     締付けトルクは締付けトルク レンチで確認してください。トルク レンチがない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

右出しの場合：

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。

⚠警告

手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めてください。誤ってエンジンがかからないようにエンジン スイッチが“停止”になっていることを確認してください。

1 本機の表面から、グリース、オイル、汚れ、土の固まりなどの付着物を取除いてください。

2 燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜いてください。

⚠警告

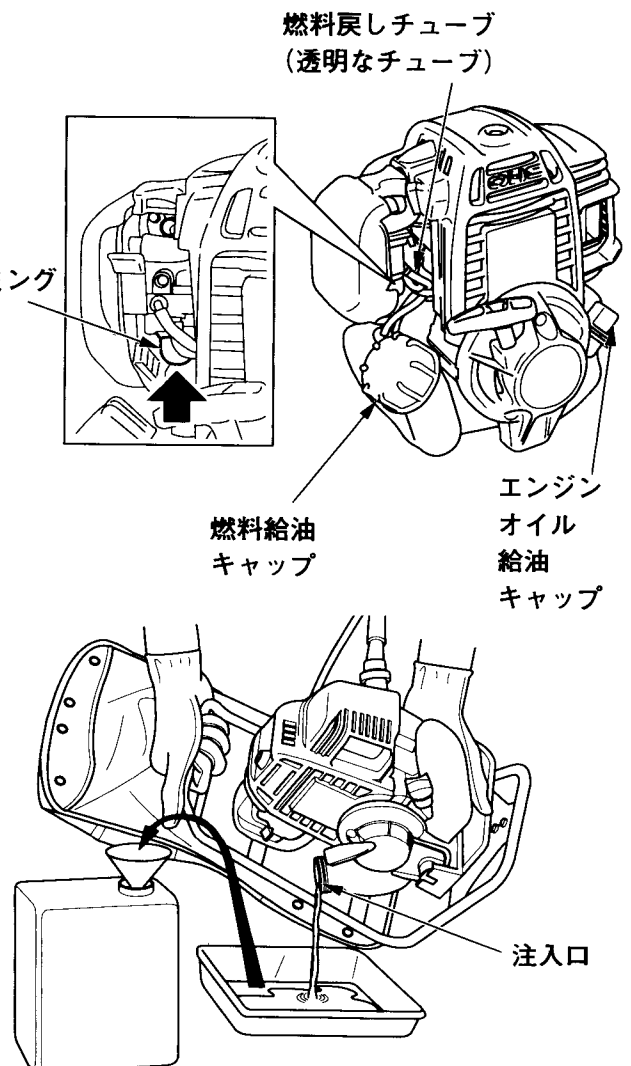
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

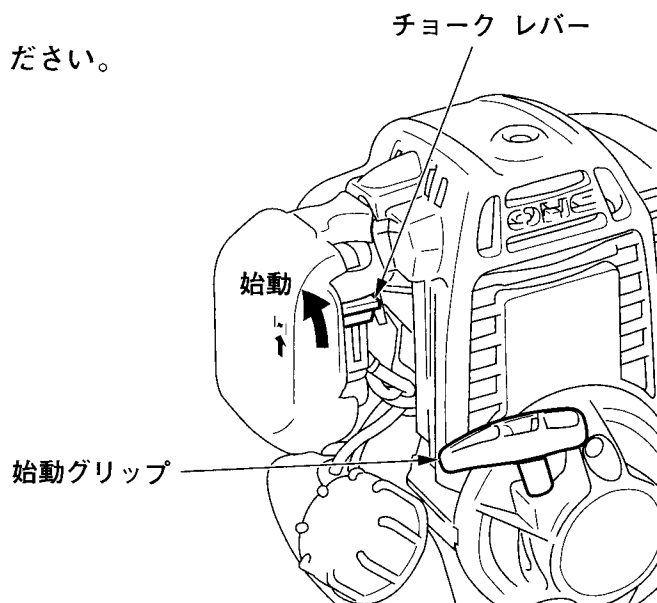
《抜きかた》

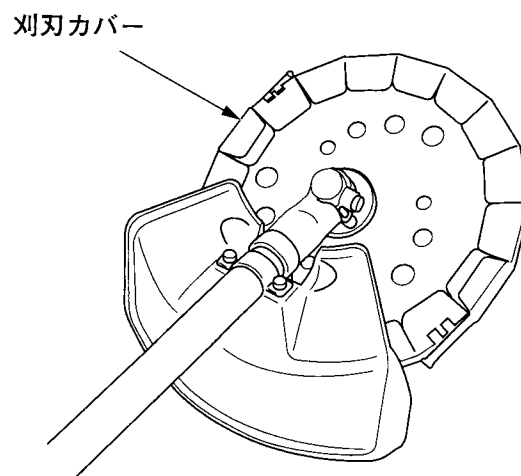
1. エンジン　オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
3. 燃料給油キャップを取付けます。
4. 燃料戻しチューブ（透明なチューブ）内のガソリンがなくなるまで、プライミング　ポンプを押します。
5. 再度、燃料給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
6. 燃料給油キャップを確実に締付けます。

取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

3 エンジン オイルを交換してください。（交換方法は、29頁参照）

4 エア クリーナを清掃してください。（清掃方法は、31頁参照）

5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

6 チョーク レバーを上げ、“始動”の位置にしてください。

7 刈刃に刈刃カバーを取付けてください。（42頁参照）

8 子供の手の届かない場所で湿気、ホコリの少ない所に、シート等をかけて保管してください。
フレキシブル シャフトをなるべくまっすぐに伸ばし、保管してください。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

不具合の内容	点検（故障診断）		原因（状態）	対　応
エンジンが始動しない	始動手順	21～22頁の手順を守っていない	エンジン スイッチが“**停止**”	“**運転**” にする
			プライミング ポンプを押していない	6～7回押す
			始動グリップの引きかたが遅い	勢いよく引く
	燃料タンク内のガソリン	ない	燃料切れ	補給（15頁参照）
		ある	燃料フィルタの目づまり	清掃（34頁参照）
			燃料系の目づまり	販売店で点検整備
			キャブレータの異常	販売店で点検整備
	点火プラグ キャップ	外れてる	点火プラグ キャップの点火プラグへの取付け不良	確実に取付ける
	点火プラグ	火花が出ない	汚れ、濡れ	点検（32頁参照）
			火花すきまの異常	調整（32頁参照）
			その他の点火プラグ異常	交換
エンジンが加速しない	エア クリーナのろ過部	汚れてる	ろ過部の目づまり	清掃（31頁参照）
	燃料フィルタ	汚れてる	燃料フィルタの目づまり	清掃（34頁参照）
	スロットル ワイヤ	遊びが大きい	調整不良	調整（33頁参照）
	———	———	他のスロットル系の異常	販売店で点検整備
	———	———	駆動系の異常	販売店で点検整備
刈刃が回転しない	———	———	駆動系の異常	販売店で点検整備
本機が異常に振動する ↓ ただちにエンジン停止	刈刃	割れ、曲り、磨耗している	刈刃のバランスが異常	交換
		取付け状態が異常	・取付けボルトのゆるみ ・刈刃とブレード ホルダとの中心ずれ	確実に取付ける（42頁参照）
	———	———		販売店で点検整備
刈刃の回転が止まらない ↓ ただちにエンジン停止	スロットル ワイヤ	遊びがない	駆動系の異常	調整（33頁参照）
	———	———	調整不良 他のスロットル系の異常	販売店で点検整備
	———	———		販売店で点検整備
エンジンが止まらない ↓ チョーク レバーを上げる	———	———	クラッチの異常 電気系の異常	販売店で点検整備

主　要　諸　元

<table>
<tr><td colspan="2">モ デ ル</td><td>UMR425 (LWJT)</td><td>UMR425H (LWHT)</td></tr>
<tr><td colspan="2">型 式 名</td><td>HAEJ</td><td>HAFT</td></tr>
<tr><td colspan="2">(ハンドル形式)</td><td colspan="2">ループ　ハンドル</td></tr>
<tr><td colspan="2">(スロットル形式)</td><td colspan="2">ファイン　スロットル</td></tr>
<tr><td colspan="2">全 長</td><td colspan="2">2,835 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">全 幅</td><td colspan="2">245 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">全 高</td><td colspan="2">475 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">全装備質量[重量]</td><td colspan="2">8.9 kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">乾燥質量[重量]
(刈刃未装着)</td><td colspan="2">8.1 kg</td></tr>
<tr><td rowspan="10">機関(エンジン)</td><td>型 式 名</td><td colspan="2">GCALT</td></tr>
<tr><td>種　類</td><td colspan="2">強制空冷　4ストローク　OHC 単気筒　ガソリン機関</td></tr>
<tr><td>排 気 量</td><td colspan="2">25.0 cm³</td></tr>
<tr><td>内径×行程</td><td colspan="2">35.0 × 26.0 mm</td></tr>
<tr><td>エンジン最大出力/
回転速度
(SAE J1349 に準拠＊)</td><td colspan="2">0.72 kW (1.0 PS)/7,000 rpm</td></tr>
<tr><td>オイル容量</td><td colspan="2">0.08 ℓ</td></tr>
<tr><td>燃料タンク容量</td><td colspan="2">0.58 ℓ</td></tr>
<tr><td>気化器</td><td colspan="2">ダイヤフラム式</td></tr>
<tr><td>点火方式</td><td colspan="2">トランジスタ　マグネト点火</td></tr>
<tr><td>点火プラグ</td><td colspan="2">CM5H (NGK)、CMR5H (NGK)</td></tr>
<tr><td colspan="2">クラッチの種類</td><td colspan="2">遠心クラッチ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">刈刃</td><td>種類</td><td colspan="2">チップソー</td></tr>
<tr><td>直径</td><td colspan="2">230 mm</td></tr>
<tr><td>回転数(エンジン回転数 7,000 rpm時)</td><td colspan="2">5,353 rpm</td></tr>
<tr><td colspan="2">刈刃停止方法</td><td colspan="2">スロットル　レバー(スロットル　トリガ)から手を離すとエンジン回転数が低下し、遠心クラッチが切れる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">支持ハンドルの種類</td><td colspan="2">片手ハンドル</td></tr>
</table>

＊:ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して、7,000 rpm(エンジン最大出力)で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。
量産エンジンの出力は、この数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

この諸元は予告なく変更することがあります。

同　梱　部　品　の　組　付　け　か　た

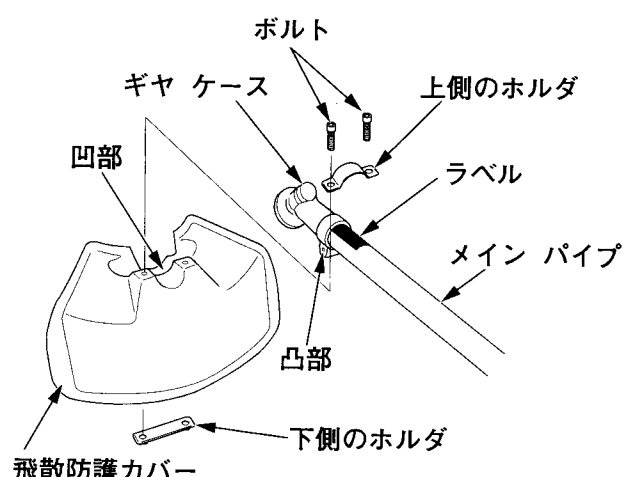
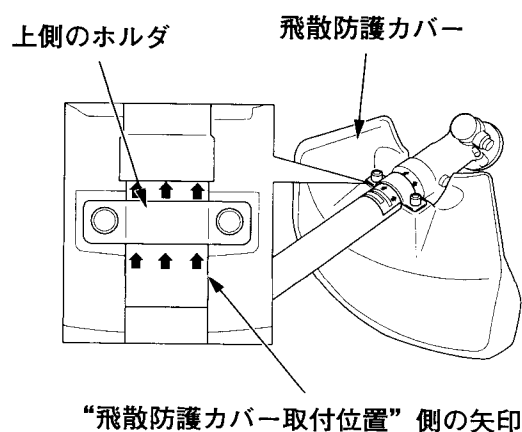
本機は、一部部品の組立てが必要です。本機を使用する前に、必要な同梱部品を正しく組付けてください。
ご自身で組付けできない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

組付けを必要とする同梱部品	適　用
飛散防護カバー	全タイプに適用
刈刃	全タイプに適用
刈刃カバー	全タイプに適用
ループ ハンドル	全タイプに適用
フレキシブル シャフト	全タイプに適用

飛散防護カバーの組付け

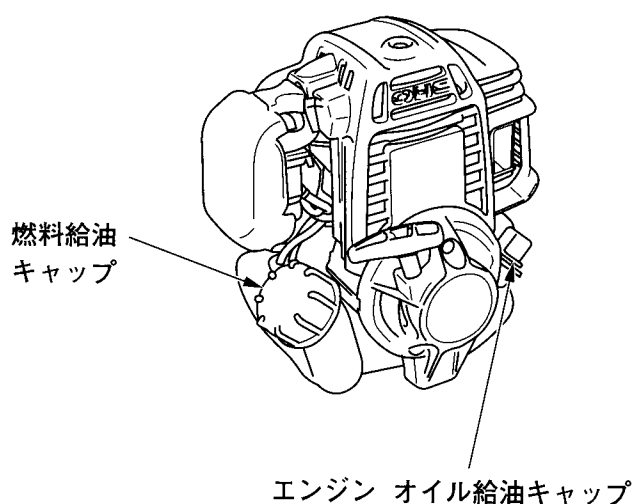
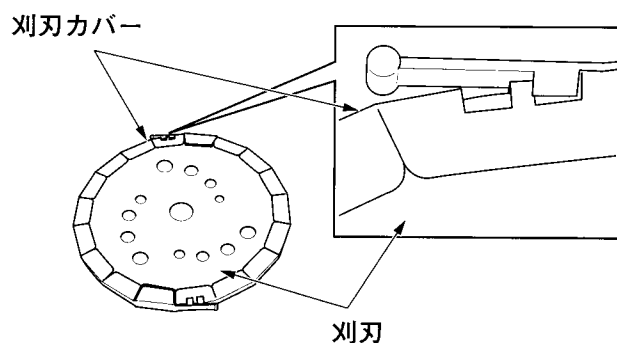
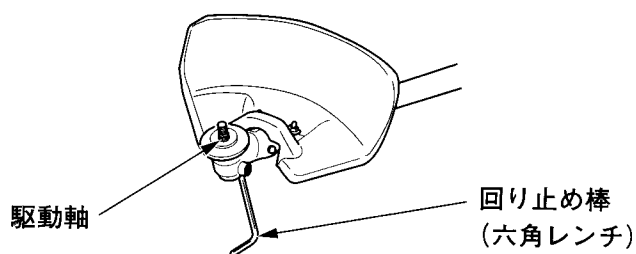
⚠警告

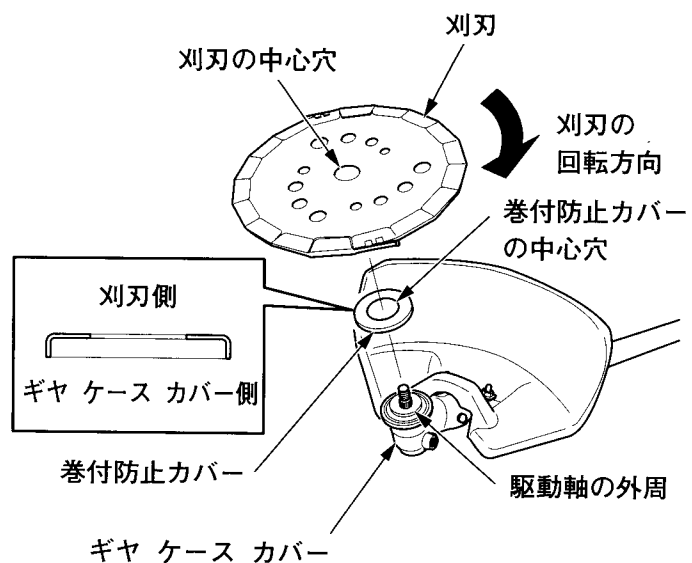
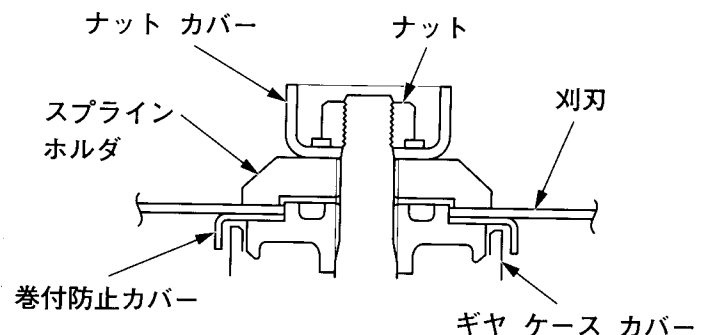
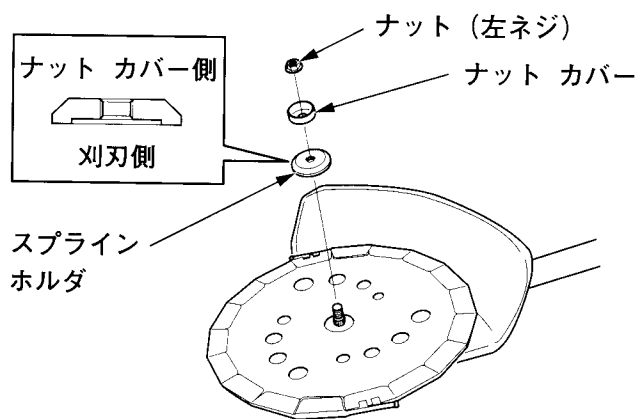
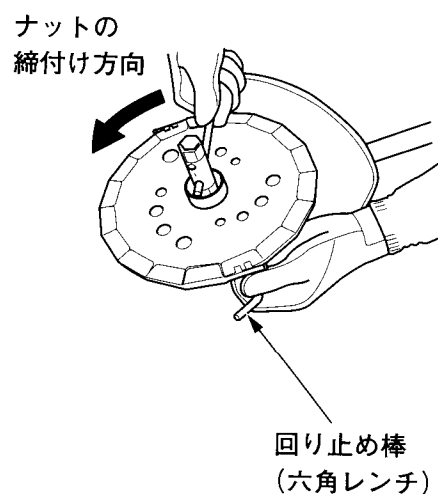
飛散防護カバーを正しい位置に取付けないと、刈払作業時、刈刃部からの飛散物が作業者に当るおそれがあります。組付け手順に従い飛散防護カバーを正しい位置に取付けてください。

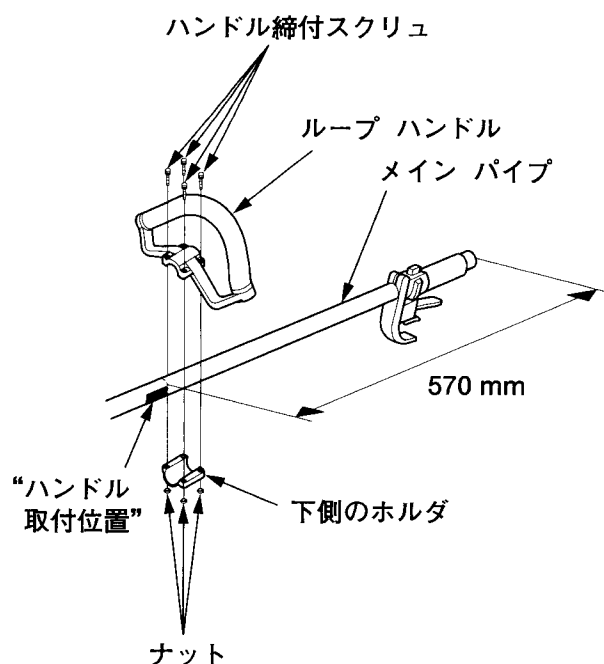
1. 刈刃取付け部が下を向くように、メイン パイプを置きます。
2. 図のように飛散防護カバーの凹部をギヤ ケースの凸部に合せて、上下のホルダを使い、ボルトで仮付けします。

3. 上側のホルダ端部をラベルの"飛散防護カバー取付位置"側の矢印先端に合わせます。このとき、飛散防護カバーがギヤ ケースの下部に突き当たります。
4. 飛散防護カバーの左右の高さが同じになるようにして、ボルト2本を六角レンチで確実に締付けます。

刈刃と刈刃カバーの組付け

⚠警告

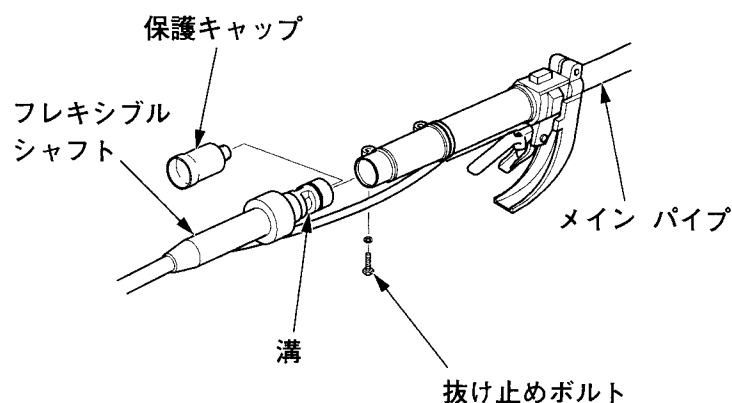
- 刈刃を取付け・取外しするときは、エンジンを停止してから、厚手の手袋を着用して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- 燃料給油キャップが確実に取付けられていることを確認してください。刈刃の着脱時、ガソリンがこぼれ危険です。

1. エンジンが停止していることを確認してください。
2. 刈刃カバーの大きい面を下側にして刈刃に取付け、両端を図のように留め、確実に固定してください。
3. 燃料給油キャップとエンジン オイル給油キャップが、確実に取付けられていることを確認します。
4. 刈刃取付け部が上を向くように、メイン パイプを置きます。(本機使用時と上下が逆の状態にします。)

5. 回り止め棒をギヤ ケース カバーの穴に差し込み、駆動軸をゆっくり回して固定位置をさがし、回り止めを行ってください。
6. 刈刃レンチでナットを時計回りに回し、外します。(ナットは左ネジです)。

下から差し込み

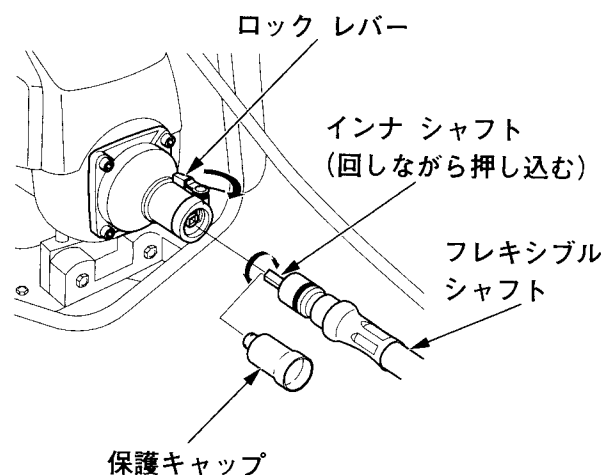
7. 巻付防止カバーの中心穴を駆動軸の外周に合わせます。
刈刃の回転方向を確認し、安全ラベル側を巻付防止カバーに向けて、刈刃の中心穴を駆動軸の外周に合わせます。
刈刃の回転方向は、右図の組付け状態で時計回り。
刈払作業時の状態では、上から見て反時計回りになります。

8. 刈刃の上から、各部品を下図のように取付けます。

9. 回り止め棒で駆動軸の回り止めを行いながら、ナットを確実に締付けます。
締付けトルク：16.7～19.6 N·m
(1.7～2.0 kgf·m)
締付けはトルク レンチで確認してください。トルク レンチがない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。
10. 回り止め棒を取外します。
11. 刈刃を手で軽く回し、刈刃の中心が駆動軸の中心からずれていないことを確認してください。
12. 刈払作業を行うときは、刈刃カバーを取外してください。

ループ ハンドルの組付け

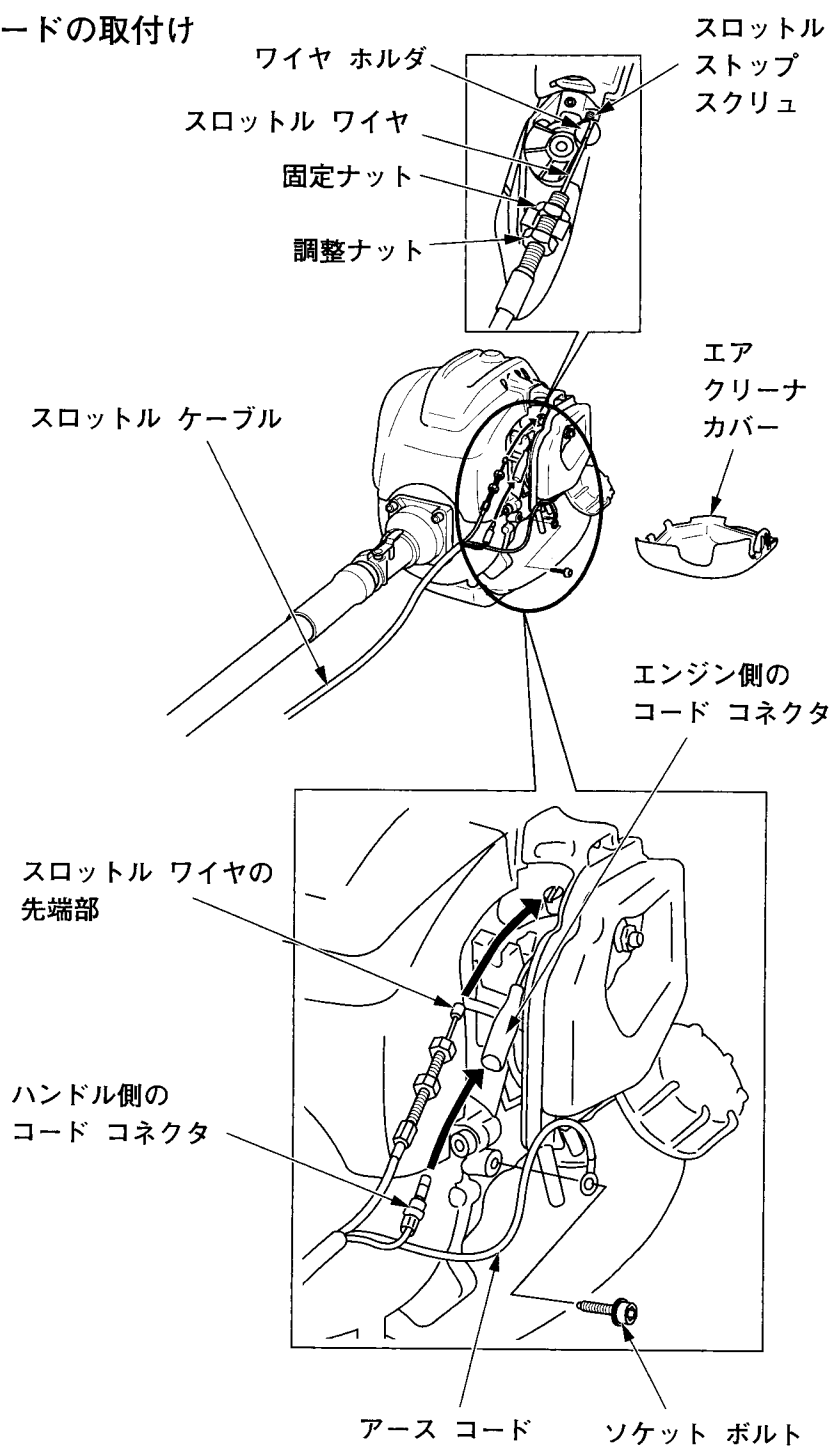
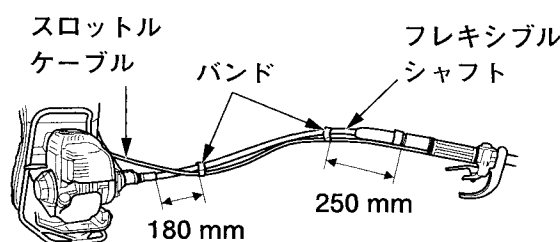
1. ラベルの“ハンドル取付位置”が下を向くように、メイン パイプを置きます。
2. ループ ハンドルを、下側のホルダを使いメイン パイプにハンドル締付スクリュで仮付けします。
3. ループ ハンドルの下部を水平にして、ループ ハンドル端部を、ラベルの“ハンドル取付位置”に合わせ、ハンドル締付スクリュ4本をドライバで確実に締付けます。
   締付けトルク：1.47～1.96 N·m（0.15～0.20 kgf·m）
   締付けはトルク レンチで確認してください。トルク レンチがない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

フレキシブル シャフトの組付け

●メイン パイプの組付け

1. メイン パイプから抜け止めボルトを外します。
2. フレキシブル シャフトのラバーの付いた側から、保護キャップを取外します。
3. フレキシブル シャフト先端の溝が途切れた部分を上に向け、フレキシブル シャフトをメイン パイプに差し込みます。
4. フレキシブル シャフト先端の溝をボルト穴に合せ、抜け止めボルトを確実に締付けます。
   締付けトルク：2.2〜2.7 N・m (0.22〜0.27 kgf・m)
   締付けトルク レンチで確認してください。トルク レンチがない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

●エンジンの組付け

エンジンの組付け状態を"左出し"に変更する場合は36頁を参照してください。

1. フレキシブル シャフトから、保護キャップを取外します。
2. インナ シャフトを手で回しながら押し込み、刈刃が回転することを確認します。
3. インナ シャフトの形状を合せ、ロック レバーを引いた状態で、フレキシブル シャフトをエンジン側に差し込みます。ロック レバーがカチッと音がするまで、差し込んでください。

コード コネクタの接続およびアース コードの取付け

1．チョーク レバーを上げた状態で、エア クリーナ カバーを取外します。(33頁参照)
2．スロットル ケーブルをキャブレータに組付けます。
　①ワイヤ ホルダを回し、穴の大きい側をスロットル ストップ スクリュの方向に向けます。
　②スロットル ケーブルをメイン パイプの下側を通しスロットル ワイヤの先端部をワイヤ ホルダに組付けます。
　③スロットル ケーブルを調整ナットと固定ナットで本機に仮付けします。
3．ハンドル側のコード コネクタとエンジン側のコード コネクタを接続します。
4．エア クリーナ（空気清浄器）下方の穴にアース コードを上に向け、付属のソケット ボルトで取付けてください。

5．バンド2本を取付け、スロットル ケーブルをフレキシブル シャフトに固定します。バンドは図の位置に取付けてください。
6．スロットル ワイヤの遊びを調整します。(33頁参照)
7．エア クリーナ カバーを取付けます。(33頁参照)

HONDA
The Power of Dreams

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通フリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 製品名、タイプ名
② ご購入年月日
③ 販売店名

30VJ6612
00X30-VJ6-6120